発行　公益財団法人　知床財団　　発行日　2019年10月18日

# REPORT 2018

## 2018年度活動報告書

**世界自然遺産**
**知床を未来へ**

皆様からのご支援が、
知床の自然保護活動を
支えています。

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

# Contents


2018年度年次報告に寄せて
2018年度の決算概要
2018年度の賛助会員の状況
2018年度の寄附状況

【公益事業】普及啓発事業

環境教育
- 地域向け環境教育
- 地域向け講座・イベント
- 学習教材トランクキットの運用
- インターンシップの受け入れ

広報、寄附・支援者の拡大推進
- 情報発信・サポーター拡大
- ボランティア活動の推進

【公益事業】調査研究・野生動物管理事業

ヒグマの調査・対策
- 知床国立公園における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務
- 斜里町ヒグマ管理対策業務
- 羅臼町ヒグマ管理対策業務
- ヒグマの生態等に関する調査業務
- 知床の暮らしと生き物を守る電気柵・ゴミステーション等普及業務

エゾシカの調査・対策
- エゾシカ生息密度操作関係業務
- エゾシカ航空カウント調査業務
- エゾシカ個体群の動態に関する調査業務
- エゾシカの採食による植生への影響調査業務

会議運営
- 科学委員会運営業務

その他
- 斜里町自然環境対策業務
- 羅臼町自然環境対策業務
- 網走市ヒグマ・エゾシカ生息状況調査
- 希少鳥類などの長期モニタリング業務
- 海生哺乳類モニタリング業務
- 水域における生物群集モニタリング業務
- 知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集業務
- 学術的な交流と成果公表に関する業務
- JBN業務

【公益事業】国立公園管理事業

施設の管理・運営
- 知床自然センター
- 知床自然教育研修所
- 羅臼ビジターセンター
- 羅臼研究支援センター
- 知床五湖園地
- ルサフィールドハウス

知床国立公園利用の適正化
- カムイワッカ地区の運営
- 知床五湖などの利用適正化の検討
- 知床エコツーリズム総合推進事業
- ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務
- 知床半島先端部地区 適正利用の啓発及び利用のあり方検討業務
- 大雪高原温泉沼めぐりコース管理運営計画再生検討業務

【公益事業】森林再生系事業

しれとこ100平方メートル運動
- しれとこ100平方メートル運動地における森林再生業務
- しれとこ100平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業

【第2期ダイキン工業株式会社寄附事業】
- 多様性に富むしれとこの森を復元する事業
- 世界遺産の価値を守り、伝える事業

【収益事業】
- 販売・有償貸し出し業務
- 研修実習受入業務

【法人会計】
- 財団法人管理運営業務

【知床財団設立30周年記念事業】

30周年記念イベント・グッズ販売等

知床財団　10年プロジェクト

【受託事業一覧】

【組織概要】


本文中にあるマークは、寄附金・賛助会費によって実施している事業であることを示しています。

受託している事業の「受託先」と「事業名」は61ページに一覧を掲載しています。

# 知床半島マップ

知床自然センター
〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地
TEL0152-24-2114 FAX0152-24-2115
http://center.shiretoko.or.jp/

羅臼ビジターセンター
〒086-1822 北海道目梨郡羅臼町湯ノ沢町6-27
TEL0153-87-2828 FAX0153-87-2876
http://rausu-vc.jp/

■知床財団の使命

私たち知床財団は知床半島をホームグラウンドとし、
世界遺産知床の自然を守り、より良い形で次世代に引き継いでいきます。
野生動物やその他の自然環境の保全・管理に携わる組織として常に先駆者であり続け、
人間が自然と親しみ調和していける社会の発展に寄与します。

# 2018年度年次報告に寄せて

公益財団法人　知床財団　理事長　村田良介

2018年は北海道命名150年の節目の年でしたが、その名付け親である松浦武四郎は4回にわたって知床を踏査し、地名だけでなくここに住むアイヌの人たちの生活を記録しています。

知床財団にとっても2018年度は設立30周年という特別な年でした。この画期にあたって、次のステップへの指針となる「知床財団10年プロジェクト」を策定するとともに、30周年記念誌の発行や記念グッズの作製、第1回知床アウトドアフィルムフェスなどの事業を行いました。

社会の目まぐるしい変化は他人事ではありません。知床にとって変えてはいけないことと、変えなければならないことをしっかり見極めて活動することの大切さを再認識した1年でした。

普及啓発事業では、これまで継続している学校や地域に向けた環境教育事業に加えて情報発信や地元イベントへの参加などを重視してまいりました。

調査研究・野生動物管理事業では、斜里町、羅臼町をはじめ、林野庁や環境省からの受託事業を中心に進めておりますが、特にヒグマに関する管理対策業務の遂行にあたっては観光客をはじめとする人間側の課題が浮き彫りになった年でした。

国立公園管理事業では、知床自然センターのリニューアルに伴うインフォメーションや映像ホールKINETOKOの機能が充実し、来春に向けた新映像の制作も進んでいます。また、羅臼町のルサフィールドハウスの知名度向上および周辺整備構想に向けた取り組みを進めました。

森林再生事業では、本格的に森の再生事業がスタートして20年が経過しました。21年目の新たな一歩として半島全体でのエゾシカ捕獲の効果をふまえた森づくりをスタートさせました。

独自事業では、オリジナル商品の開発や関連企業との連携を深めた取り組みを進めています。また、ウトロ市街地のヒグマ対策型ゴミ箱を新たにクラウドファンディングの手法で設置しました。

2018年度も多くの個人・企業の皆さまからご支援をいただきました。継続的にご支援いただいている大手企業をはじめ、斜里町や羅臼町の方々からも温かい励ましとともに有形無形のご支援をいただいたことは、私たちにとって大きな励みになっています。引き続き、知床を「知り、守り、伝える」活動に努力してまいります。

## 村田　良介　Ryousuke Murata

石川県小松市に生まれ、愛知県で育つ。1980年から斜里町教育委員会で社会教育主事や知床博物館学芸員として勤務。02年から環境保全課で「しれとこ100平方メートル運動」、世界自然遺産登録、知床五湖の利用調整地区制度導入などを担当。総務環境部長を経て11年に教育長に就任し、現在4期目。プライベートでも登山や山スキー、沢登り、カヌーで知床を駆け巡り、自然や歴史の魅力を発信している。

［歴代理事長及び任期］

藤重千秋　（1988年9月23日～1997年9月23日）
法量　武　（1997年9月24日～2003年3月31日）
森　信也　（2003年4月1日～2009年3月31日）
関根郁雄　（2009年4月1日～2016年6月10日）
村田良介　（2016年6月11日～）

# 2018年度の決算概要

## 2018年度の総事業費は、3億831万円

知床財団の事業費は「独自事業」、「斜里町・羅臼町委託事業」、「その他委託／請負事業」の大きく3つに分類されます。中でも、独自事業は賛助会費や寄附金が重要な財源となっています。賛助会員をはじめとする多くの方々の継続的なご支援により、2018年度は約50の事業を行いました。

### 1. 独自事業

（事業費5千296万円）

賛助会費や寄附金の他、知床自然センター及び羅臼ビジターセンターでの販売物収入が主な財源となっています。

### 2. 斜里町・羅臼町委託事業

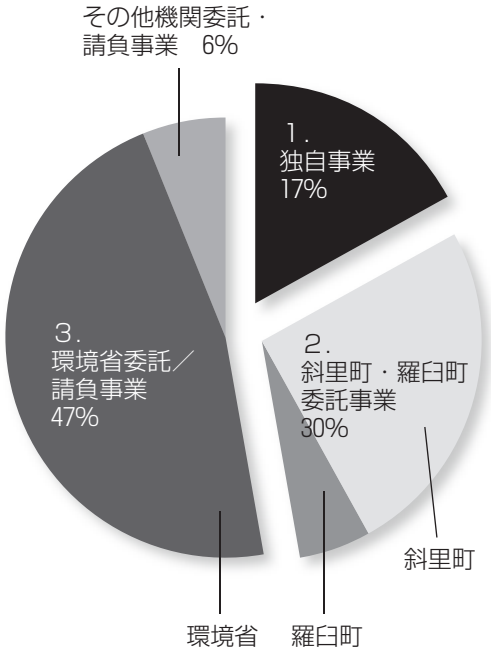
（事業費9千321万円）

斜里町からは、知床自然センターや知床自然教育研修所などの指定管理業務やしれとこ100平方メートル運動の現地業務などを受託し、羅臼町からは、羅臼ビジターセンターの運営業務を受託しました。また両町からヒグマ管理対策業務、自然環境保護管理対策業務をそれぞれ受託しました。

### 3. その他委託／請負事業

（事業費1億6千214万円）

環境省や林野庁、その他機関から、各種業務を受託しました。




## 2018年度の決算報告

| 科目 | 金額 |
|---|---|
| Ⅰ　一般正味財産増減の部 | |
| 1.　経常増減の部 | |
| (1)経常収益 | |
| 基本財産運用益 | 4,500 |
| 事業費収益 | 255,351,015 |
| 寄附金 | 18,175,387 |
| 普及研修収益 | 31,595,475 |
| その他の事業収益 | 253,816 |
| 雑収益 | 2,931,395 |
| 経常収益計 | 308,311,588 |
| (2)経常費用 | |
| 事業費 | 306,999,451 |
| 管理費 | 4,545,001 |
| 経常費用計 | 311,544,452 |
| 当期経常増減額 | ▲ 3,232,864 |
| 2.　経常外増減の部 | |
| (1)経常外収益 | |
| 経常外収益計 | 0 |
| (2)経常外費用 | |
| 経常外費用計 | 1 |
| 当期経常外増減額 | ▲ 1 |
| 当期一般正味財産増減額 | ▲ 3,232,865 |
| 一般正味財産期首残高 | 77,814,884 |
| 一般正味財産期末残高 | 74,582,019 |
| Ⅱ　指定正味財産増減の部 | |
| 受取指定寄附金 | 8,010,000 |
| 一般正味財産への振替額 | ▲ 5,732,316 |
| 当期指定正味財産増減額 | 2,277,684 |
| 指定正味財産期首残高 | 51,450,000 |
| 指定正味財産期末残高 | 53,727,684 |
| Ⅲ　正味財産期末残高 | 128,309,703 |

web https://www.shiretoko.or.jp/about/outline/teikan

# 2018年度の賛助会員の状況

知床財団の活動は、賛助会員をはじめとする多くのサポーターの皆様に支えられています。2018年度は新たに134名、13法人の皆様にご入会いただきました。皆様の温かいご支援に対しまして心から厚く感謝と御礼を申し上げます。

なお、知床財団への会費は、所得税、住民税、及び相続税における優遇措置を受ける対象となります。詳しくは知床財団ホームページ、または税務署にお問い合わせください。

URL　https://www.shiretoko.or.jp/supporter/zei/

## （1）2018年度の会員数

| 個人年会員 | 個人終身会員 | 法人年会員 | 法人特別年会員 |
|---|---|---|---|
| 700名 | 1,076名 | 49法人 | 17法人 |

## （2）新規入会

個人年会員117名、個人終身会員17名、法人特別年会員6法人、法人年会員7法人の入会がありました。私たちの活動をご支援いただき、深く感謝申し上げます。

## （3）法人特別年会員（入会順）

| 法人名 | 所在地 |
|---|---|
| 商船三井フェリー株式会社 | 東京都 |
| 光和メディカルクリニック ヘルスケアセンター | 東京都 |
| ナチュラル株式会社 | 福岡県 |
| 富士化学工業株式会社 | 札幌市 |
| 株式会社四ツ葉トレイド | 福岡県 |
| 株式会社キタムラ | 神奈川県 |
| 株式会社プリズム | 東京都 |
| 株式会社アウトバック | 岩手県 |
| 株式会社中田建機 | 斜里町 |

| 法人名 | 所在地 |
|---|---|
| 日本グッドイヤー株式会社 | 東京都 |
| 株式会社スタンフット | 東京都 |
| 【新】九十九商会株式会社 | 埼玉県 |
| 【新】株式会社ゴールドウイン | 東京都 |
| 【新】パシフィックコンサルタンツ株式会社 | 東京都 |
| 【新】株式会社モンベル | 東京都 |
| 【新】一般財団法人２２世紀に残すもの | 東京都 |
| 【新】株式会社環境ダイゼン | 北見市 |

※【新】は2018年度の新規入会法人

# 2018年度の賛助会員の状況

## （4）法人会員一覧（入会順）

| 法人名 | 所在地 |
|---|---|
| 株式会社知床グランドホテル | 斜里町 |
| オリジナル設計株式会社　札幌事務所 | 札幌市 |
| 株式会社ユートピア知床 | 斜里町 |
| 株式会社須田製版　釧路支店 | 釧路市 |
| ゴジラ岩観光 | 斜里町 |
| 知床オプショナルツアーズＳＯＴ！ | 斜里町 |
| 株式会社みさき水産 | 羅臼町 |
| 有限会社赤岩水産 | 羅臼町 |
| 羅臼漁業協同組合 | 羅臼町 |
| ウトロ漁業協同組合 | 斜里町 |
| オコツク漁業生産組合 | 斜里町 |
| 株式会社辻中商店 | 羅臼町 |
| 有限会社木切別漁業 | 羅臼町 |
| 峯浜水産有限会社 | 羅臼町 |
| 有限会社知床ネイチャークルーズ | 羅臼町 |
| 有限会社らうす第一ホテル | 羅臼町 |
| 株式会社秀岳荘 | 札幌市 |
| 株式会社フェニックス | 東京都 |
| 小川建設株式会社 | 羅臼町 |
| 株式会社大石アンドアソシエイツ | 東京都 |
| ピックス株式会社 | 斜里町 |
| 鷲の宿 | 羅臼町 |
| 田島公認会計士事務所 | 東京都 |
| サージミヤワキ株式会社 | 当別町 |
| 株式会社小柳中央堂 | 北見市 |

| 法人名 | 所在地 |
|---|---|
| 小野建設工業株式会社 | 羅臼町 |
| 有限会社丸大阿部商店 | 羅臼町 |
| シティ環境株式会社 | 網走市 |
| 知床ガイド協議会 | 斜里町 |
| ＣＳＥＧ株式会社 | 東京都 |
| ファームエイジ株式会社 | 当別町 |
| 羅臼石油株式会社 | 羅臼町 |
| 医療法人社団鶴翔会　つるい整形外科 | 東京都 |
| 土橋工業株式会社 | 斜里町 |
| 株式会社あらい | 福岡県 |
| 安田商事株式会社 | 斜里町 |
| 株式会社ふれあい | 石狩市 |
| エース株式会社 | 東京都 |
| 有限会社川上水産 | 羅臼町 |
| 大森ペット霊堂 | 東京都 |
| 斜里バス株式会社 | 斜里町 |
| ワイエスインターナショナル株式会社 | 東京都 |
| 【新】株式会社キムラシステム | 札幌市 |
| 【新】株式会社アヤメ緑化工業 | 中標津町 |
| 【新】アリス動物病院 | 神奈川県 |
| 【新】WOOD LINK furniture & gallery | 札幌市 |
| 【新】株式会社バリュープロモーション | 東京都 |
| 【新】有限会社尾﨑プロパティ | 埼玉県 |
| 【新】合同会社クアッガ | 東京都 |

※【新】は2018年度の新規入会法人

# 2018年度の寄附状況

一般寄附としてお寄せいただいた件数は83件、総額3,554,508円にのぼりました。内、個人の方からは70件、法人からは13件でした。寄附の用途を特定する指定寄附としてお寄せいただいた件数は193件（個人191件、法人2件）、総額8,010,000円のご寄附をいただきました。ご支援いただいた皆様に、心より御礼申し上げます。

その内、ゴミステーションクラウドファンディングによる指定寄附は、個人190件、総額1,810,000円でした。

## （1）一般寄附をいただいた法人

| 法人名 | 金額(円) |
|---|---|
| 日本グッドイヤー株式会社 | 943,250 |
| アサヒビール株式会社 | 100,000 |
| 特定非営利活動法人ランナーズサポート北海道 | 72,000 |
| WILLER株式会社 | 70,000 |
| 株式会社北日本新聞社 | 50,000 |
| 知床オプショナルツアーズSOT！ | 30,000 |
| Photograph albireo | 8,500 |
| ふしぎのくにのものづくり工房 | 5,000 |
| 手作りクレヨン工房 Tuna-kai | 4,200 |
| 株式会社フェニックス | 3,174 |

## （2）指定寄附をいただいた法人

**【ダイキン工業株式会社　寄附額：5,000,000円】**

ダイキン工業株式会社様より平成28年から8年間で総額4千万円のご寄附をいただく協定を締結しました。協定に基づき以下2つの事業を実施しました。

・「多様性に富むしれとこの森を復元する」事業 (P46参照)

・「世界遺産の価値を守り、伝える」事業 (P47参照)

**【斜里町内の企業　寄附額：1,000,000円】**

斜里町内の企業様（匿名）より、知床世界自然遺産の環境保全とその普及啓発活動に対し、ご支援をいただきました。

公益事業 普及啓発事業

環境教育

## 地域向け環境教育

斜里町

知床ウトロ学校の全児童・生徒を対象に、ヒグマの生態やヒグマに出会わない方法、出会ってしまった時の対処法を学ぶクマ授業を実施しました。2000年から毎年続いている授業で、毎回職員が学校に出向いています。2018年度から同校8年生が先生として1・2年生のクマ授業を受け持つことになりました。学ぶ立場から教える立場になった8年生を私たちがサポートする形で授業が行われました。また、総合的な学習の時間の一環として同校1、2年生を対象に、身近な自然や昆虫について学習する授業を野外で実施しました。

斜里小学校4年生を対象に、しれとこ100平方メートル運動の森づくり活動やその活動の歴史を知ってもらう授業を実施しました。知床ウトロ学校8年生の職業体験実習時には、同運動の森づくり作業を体験してもらいました。

▲クマ授業のやり方を職員から学ぶ8年生.

▲身近な木や落ち葉を学ぶ授業の様子.

▲スノーシューを履いて冬の森を児童たちに紹介する職員.

## 羅臼町

羅臼町では2007年度からクマ授業を実施しています。当初は中高一貫教育のカリキュラムとして始まり、2017年度からは幼小中高一貫教育のもと、毎回職員が出向いてクマ授業を行っています。2018年度は9回の授業を行いました。

職場体験学習では町内の知床未来中学校2年生、羅臼高等学校2年生のほか、隣町にある標津高等学校2年生も羅臼ビジターセンターで受け入れました。

羅臼町内の小学4～6年生を対象に、羅臼の自然や文化を楽しみながら学習し、郷土愛を育むことを目的とした「知床キッズ（羅臼町ふるさと体験教室）」を毎年羅臼町公民館、環境省と協働して実施しています。2018年度で5年目となる「知床キッズ」と斜里町ウトロの「知床自然愛護少年団」との交流事業も引き続き実施しました。

羅臼町の小学4年生から中学3年生を対象とした「羅臼町ふるさと少年探険隊（羅臼町教育委員会、羅臼町公民館、子ども会育成協議会主催）」は、知床半島羅臼側の海岸を自分の力で踏破し、そこで生活する5泊6日の野外学習で、35年の歴史を誇ります。知床財団は2014年度から運営スタッフとして探険隊を支えており、2018年度も職員1名が参加しました。

▲羅臼の春松小学校でのクマ授業の様子.

▲潮だまりの生き物を観察する「知床キッズ」と「知床自然愛護少年団」の子どもたち.

環境教育

# 地域向け講座・イベント

## クマ端（ばた）会議

知床財団が行うヒグマ対策活動について、住民の理解と協力を得ることを目的に、職員とウトロ住民が直接意見交換をする「クマ端会議」を開催しました。2017年度よりウトロ地域に加え、斜里町市街地でも実施しています。ウトロ開催の会では、知床財団とシティ環境株式会社様と共同開発したヒグマ対策ゴミステーション「とれんベア」を参加者に紹介しました。

▲クマ端会議にてクマ対策ゴミステーションを紹介する職員.

## 外来種アザミ駆除講座

外来種であるアメリカオニアザミを取り除くボランティアを町民から募り、半日かけて作業しました。町民ボランティアによるアメリカオニアザミの駆除活動は、2017年の環境省事業「住民講座」から引き続き行ったもので、継続的に実施して駆除の効果を体感することを目的に、2018年度も実施しました。

## 住民講座 環境省/C1

地域住民を対象に知床世界自然遺産地域の保護管理や自然の魅力などを題材とした講座の企画・運営を行いました。

初回は人とヒグマの軋轢を減らすための一つの糸口として、斜里と羅臼をつなぐ知床横断道路の知床峠周辺でゴミ拾いを実施し、間接的にヒグマの餌付けとなり得る要因を取り除くとともに、人とヒグマが抱える課題についても参加者に対しレクチャーを行いました。

そのほか、斜里開催の講座では、釧路のフレンチレストラン「イオマンテ」のシェフ・舟﨑一馬氏を講師にお迎えして、エゾシカ肉普及のための料理教室を開催しました。

羅臼開催の講座では世界的冒険家であり医師、文化人類学者でもある関野吉晴氏を講師にお迎えして、これまでの経験を通じて知床の魅力を再認識する講演会を実施しました。

▲アメリカオニアザミを駆除したアザミバスターズの皆様.

▲住民講座でエゾシカ肉の調理法を学ぶ町民.

## 学習教材トランクキットの運用

ヒグマ学習教材トランクキットはヒグマについて正しく知ってもらうことを目的に発案され、ヒグマ授業をしたいという全国の指導者のもとへ出張しています。

2018年度、ヒグマ学習教材トランクキットの貸出実績は15件となりました。貸出し出張期間以外では、職員がヒグマ授業や、広報イベント、知床自然センター内での観光客向けレクチャー、町民への普及活動などに活用しました。

また、海獣版のトランクキットは、羅臼ビジターセンターでのミニレクチャーなどの場で職員が活用したほか、1月に札幌で開催されたイベント『世界自然遺産・知床の日「しれとこ食の宴」』でも活用し大変好評でした。

▲大学生にヒグマトランクキットを紹介する職員.

2018年度ヒグマ学習教材トランクキット貸し出し先一覧

| 所在地 | 団体名 |
|---|---|
| 北海道 | NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト（5月） |
| | 公益財団法人北海道環境財団 |
| | 北海道岩内高等学校 |
| | 北海道キャンピングフェア（内部使用） |
| | 釧路市こども遊学館 |
| | 東京農業大学（内部使用） |
| | さくらの咲くところ（島牧村） |
| | NPO法人 霧多布湿原ナショナルトラスト（2月） |
| | 札幌支部高等学校登山選手権大会（フードコンテナのみ） |
| | 札幌市定山渓自然の村（内部使用） |
| 神奈川県 | 神奈川県立吉田島高等学校 |
| 東京都 | 株式会社イースクエア |
| | 薫る風・上原こども園 |
| | アトリエまくらのいきおい |
| | 国立公園・世界自然遺産カーボン・オフセット・キャンペーン実行委員会 |
| | ワイエスインターナショナル株式会社 |
| | 東京都恩賜上野動物園 |

環境教育

## インターンシップの受け入れ

環境教育や調査研究、公園管理の現場で活躍する人材の教育、育成のため、インターンシップ（就業体験）の受け入れを行いました。野生動物や環境保全専攻の学生だけでなく、法学部、経営学部、芸術学部など幅広い分野の全国の学生から応募があり、夏冬合わせて10機関よりのべ16名を受け入れました。

2018年度インターン所属大学

| 夏期 | 人数 |
|---|---|
| 帯広畜産大学 | 1 |
| 東京農業大学 | 2 |
| 北海学園大学 | 1 |
| 國學院大學 | 1 |
| 札幌工科専門学校 | 2 |
| 国際基督教大学 | 1 |
| 女子美術大学 | 1 |
| 関西大学 | 1 |
| 筑波大学 | 1 |
| 計 | 11 |

| 冬期 | 人数 |
|---|---|
| 帯広畜産大学 | 1 |
| 東京農業大学 | 1 |
| 国際基督教大学 | 1 |
| 関西大学 | 1 |
| 酪農学園大学 | 1 |
| 計 | 5 |

▲知床自然センターにて来館者に説明をするインターン.

▲会報誌
SEEDS 2018年春号.

▲会報誌
SEEDS 2018年夏号.

▲会報誌
SEEDS 2019年冬号.

広報、寄附・支援者の拡大推進

# 情報発信・サポーター拡大

## 会報誌「SEEDS」

賛助会員向けの会報誌である知床自然情報誌「SEEDS」を3回発行しました。

知床財団ホームページではダイジェスト版を公開しています。

●https://shiretoko.or.jp/seeds

▲知床財団HPのライブラリにてSEEDSの活動紹介特集を公開.

## 知床財団だより

地元の斜里・羅臼両町民向けには、2009年度より知床の旬の自然情報や私たちの活動・イベント情報をお知らせする「知床財団だより」を発行しています。2018年度は下半期の2ヶ月に1回、斜里・羅臼両町の広報誌に折り込みました（発行部数：斜里町5,050部、羅臼町2,000部）。

▲知床財団だより「ヒグマ総集編」.

## 広報、寄附・支援者の拡大推進

### インターネットを活用した普及･広報

知床財団の活動に対する理解と支援の輪を広げるため、ホームページでの情報発信を続けています。2018年度より、知床のヒグマの最新出没状況やヒグマの生態、対処法を総合的にまとめたホームページ「知床のひぐま」を新たに開設しました。また、幅広い年代への広報拡大のためFacebookやTwitterなどのSNS（Social Network Service）を重点的に活用しました。

■知床のひぐま
https://brownbear.shiretoko.or.jp/

▲知床のひぐまHP.

### サポーター拡大

知床財団の活動をひろく一般の方へPRし寄附拡大へとつなげるため、札幌近郊で開催されている北海道キャンピングフェアに出展しました。本イベントへの参加は2016年度より始まり3回目となります。また、斜里町のしれとこ産業まつり、羅臼町の知床開きに出展し、地元住民に対し知床財団の活動内容の普及に努めました。

また､知床の日には札幌のホテルで開催された『世界自然遺産・知床の日「しれとこ食の宴」』というイベントにおいてブース出展し、簡単なレクチャーも実施して、知床財団の認知度向上に努めました。

▲地元斜里町で毎年開催される「しれとこ産業まつり」の知床財団ブースの様子.

▲「しれとこ食の宴」で飾られた実物大のシャチ布展示.

## ボランティア活動の推進

2018年度末でのボランティア登録者数は217名、その内の44名の皆さんが「100平方メートル運動の森・トラスト」の現場での森づくりや羅臼でのルサフィールハウス裏手に防風・防雪柵を設置する作業などに参加してくださいました。年齢層は10代から70代までと幅広く、道内のみならず遠くは関東や関西からも駆けつけていただきました。今年度、総活動日数は39日間、のべ参加人数は116人日となりました。

▲ルサフィールドハウス裏手に防鹿柵を設置するボランティアの皆さん.

公益事業

# 調査研究・野生動物管理事業

ヒグマの調査・対策

## 知床国立公園における利用の適正化と野生動物との共生を推進する業務 環境省/C2

知床国立公園および国指定知床鳥獣保護区内において、知床財団に寄せられたヒグマの目撃や痕跡情報をもとにヒグマ出没地点周辺の状況調査や誘引物の除去、追い払いをするとともに、事前対策として電気柵の設置･メンテナンス、観光客への注意喚起･指導などヒグマによる事故や被害を防ぐための活動をしました。

特に知床五湖やフレペの滝などの利用エリアにおいて、ヒグマの出没状況に応じた情報周知を行いました。岩尾別温泉道路においてはサケ・マスの遡上時期にヒグマの出没が頻発し、カメラマンによるヒグマへの異常接近が常態化しているため、監視小屋の設置のほか、カメラマンや観光客へマナーを呼びかける注意看板を設置して、定期的に巡回を行いました（5年目）。またキツネへの餌やりなど公園利用者の不適切な行為に対する指導や、傷病鳥獣の一時保護収容を行いました。

## 斜里町ヒグマ管理対策業務 斜里町/A1

2018度のヒグマ目撃件数は1,617件、対策活動が1,050件で前年度を上回り、過去2番目に多い年でした。2017年から頻繁に出没していたヒグマが子連れで出没し、宿泊施設の小屋内にあった生ゴミを食べてしまう事例が5月に発生しました。このヒグマはその後経過観察となりましたが、問題行動を繰り返し、最終的には11月に有害捕獲されました。知床五湖でのヒグマ目撃件数は、過去最多（216件）となりました。利用調整地区制度と登録引率者の導入から8年が経過し、知床五湖園地内では人を恐れないヒグマの出没が増えている状況にあります。岩尾別川河口を見下ろす道道の急カーブ連続区間では、河口に現れるヒグマ目当ての観光客やカメラマンなどによる渋滞が頻繁に発生し、対応に苦慮しました。サケ・マス遡上シーズンの幌別川の河口では、釣り人による自主的な釣り場管理団体である「幌別の釣りを守る会」の方たちが早朝からパトロールし、ヒグマを無用に引き寄せないように釣り人たちの荷物や釣った魚の管理に目を配りました。知床財団は、釣った魚の残滓を入れるためのヒグマが壊すことのできないゴミ箱（とれんベア）の設置やゴミ回収の管理活動などで協力しました（3年目）。

斜里町内におけるヒグマの人為的要因による死亡数（有害駆除＋狩猟＋事故）は13頭でした。そのうち7頭の捕獲原因が農作物への加害でした。

▲岩尾別川にて保護されたシマフクロウ.

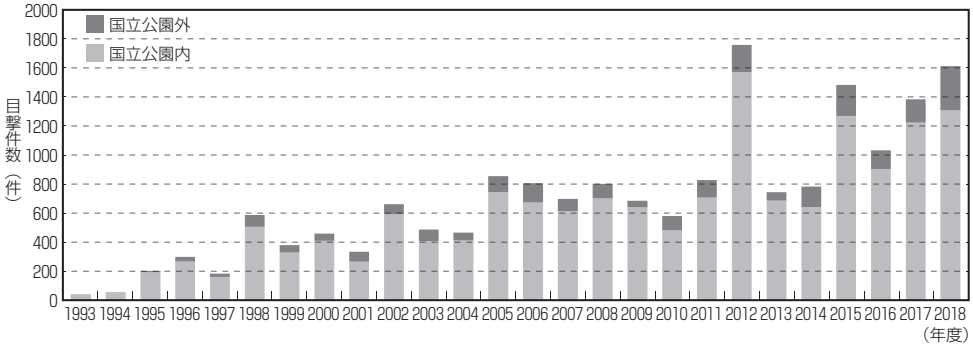
▲宿泊施設の外に保管していたゴミを食べてしまったヒグマ.

## 羅臼町ヒグマ管理対策業務 羅臼町/B1

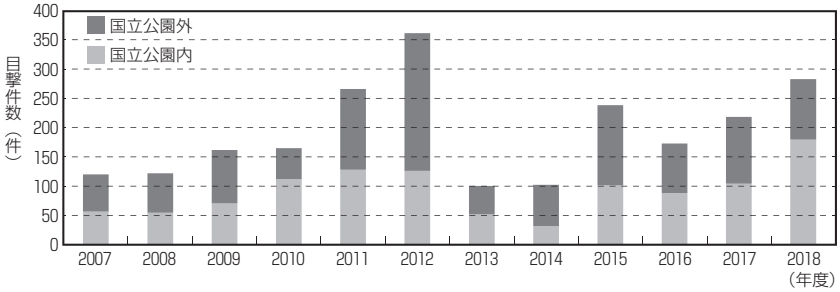
2018年度のヒグマ目撃件数は285件、対策活動は215件で、いずれも7月に最多となりました。5月に知床横断道路でヒグマの目撃が相次ぎ、5月の件数としては、目撃件数、対応件数ともに過去最多となりました。羅臼町内における人為的要因による死亡数（有害捕獲＋狩猟＋事故）は14頭でした。このうち、有害捕獲された12頭の捕獲原因は、漁業番屋施設を壊されたり水産加工場の加工残渣を荒らされる被害や市街地へ侵入したことが原因でした。なお、ヒトとの軋轢を伴わない知床岬先端部における観光船などの船上からのヒグマの目撃は、観光船の便数が増えたこともあり、2018年度は947件ありました。

▲知床横断道路に出没したヒグマ.

斜里町におけるヒグマ目撃件数の年次推移




羅臼町におけるヒグマ目撃件数年次推移




2012年と2015年は大量出没年で、多数のヒグマが結果として駆除された。目撃・対応件数は2016年以降は高止まり傾向にある。

ヒグマの調査・対策

## ヒグマの生態等に関する調査業務

ドラム缶式ワナにより2頭のヒグマを幌別-岩尾別地区で生体捕獲しました。2頭目に捕獲されたメス成獣には、北海道大学所有のカメラ付きGPS首輪を装着し、サケ捕食の瞬間やヤマブドウ採食時の動画を取得することができました。また、ウトロ市街地柵内に侵入し、国設キャンプ場の樹上に滞留した亜成獣1頭を麻酔銃で緊急捕獲し、幌別地区へ移動放獣しました。また、対策活動時の外見による個体識別精度を向上させるため、ヒグマ5頭について麻酔銃による組織片採取（ダートバイオプシー）を行ない、遺伝子分析による結果を得ました（北大獣医学部との共同）。さらに、有害捕獲等で得られたヒグマの頭骨28個体分（斜里13・羅臼6・標津3・清里3・弟子屈1・小清水1・網走1）の標本を作製しました。また斜里町ルシャ地区を利用するヒグマを、目視と遺伝子分析（分析試料はヘアトラップにより採取した体毛、麻酔銃ダートバイオプシーによる皮膚組織片、回収した新鮮クマ糞など）によって個体識別し、個体間の血縁関係やルシャ地区の外への移動分散状況などを引き続き調査しました。2018年に斜里町と羅臼町で人為的要因により死亡したヒグマ27頭の中には、明らかにルシャ地区生まれである個体は含まれていませんでした。

▲行動を追跡するためのカメラ付きGPS首輪を装着されたヒグマ.

▲DNA分析するための皮膚片を採取するダートがヒグマに命中した瞬間.

▲寄附を募ったクラウドファンディングサイト.

## 知床の暮らしと生き物を守る電気柵・ゴミステーション等普及業務

知床岬先端部にある斜里側文吉湾の漁業番屋へは、ヒグマが出没してもすぐに駆けつけることができず、対策に苦慮していました。そこでヒグマを近づけないための電気柵を設置しています。また斜里町ウトロ地区において、ヒグマによる魚干し場被害の拡大防止等を目的として、簡易電気柵の無償貸し出し・設置補助を継続実施しました。

ヒグマが中のゴミを荒らすことのできない堅牢性と仕組みを備えたゴミステーション「とれんベア」を3基ウトロ市街地に設置するため、12月3日よりクラウドファンディングを利用して寄附を募りました。190名の方から目標金額を上回る総額181万円の寄附と温かいメッセージをいただきました。

羅臼町では、市街地中心部及びルサ地区から相泊地区において電気柵が導入されており、知床財団はダイキン工業株式会社様からの支援を受け、これらの電気柵の維持管理を実施しています。2018年度も引き続き、電気柵の立ち上げや撤去といった運用を実施しました。また併せてヒグマが民家近くの藪に潜まないように、フキやイタドリの刈り払いも町内各所で行いました。

▲羅臼の住宅地の草刈りをする様子.

エゾシカの調査・対策

## エゾシカ生息密度操作関係業務

環境省/C3, C4　林野庁/D1, D2, D3

近年、増え過ぎたエゾシカの捕獲事業を知床地区、幌別・岩尾別地区およびルサ・相泊地区で実施中ですが、2018年度も冬期間の一大事業として取り組みました。これらの事業の最終的な目的は各地の植生（植物の集団）の回復です。岩尾別大型仕切柵を含めて囲いわなを6基、箱わなを20基、くくりわなを約50基稼働させました。また、閉鎖した道路内で車を用いた流し猟式シャープシューティング（計画的な精緻射撃によりシカの警戒心を高めることなく高い効率で捕獲を続ける手法）を2ヶ所、餌で誘引しての狙撃を3ヶ所で行ったほか、知床岬ではくくりわなや待ち伏せ狙撃による捕獲も行いました。上記手法で3月末までに知床半島各地で計309頭のエゾシカを捕獲しました。

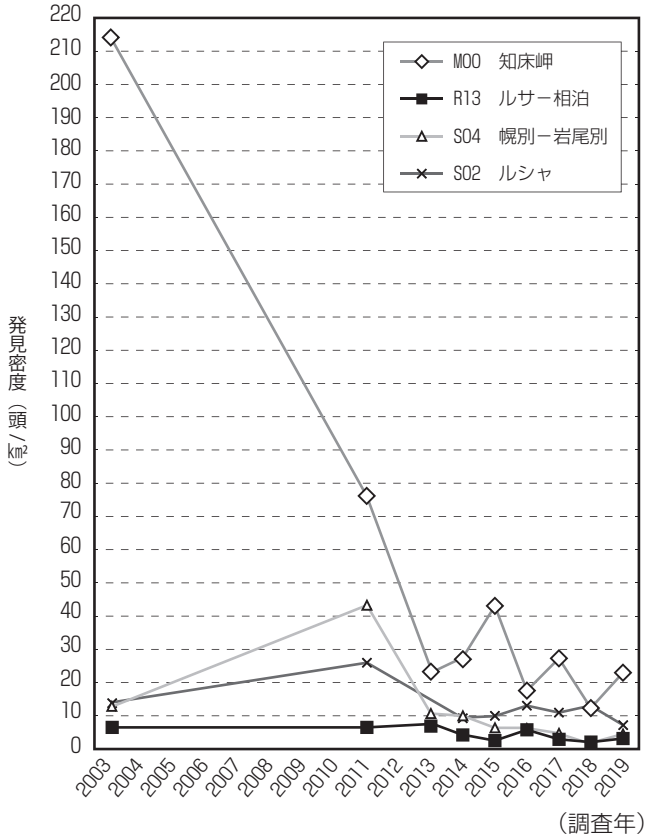
▲箱わなで捕獲したエゾシカ.

▲厳冬期の知床半島上空より.

## エゾシカ航空カウント調査業務 環境省/C5

知床半島の世界遺産地域内限定でエゾシカの航空カウント調査を実施しました。調査区10区画で138群621頭のエゾシカをヘリコプターから発見しました。主要な越冬地である知床岬地区、ルシャ地区、幌別-岩尾別地区及び、ルサ-相泊地区の4地区におけるエゾシカのカウント数の増減は、捕獲を行っていないルシャ地区で減少していた一方で、捕獲を行っている地区で増加しており、少数のエゾシカが地区間を移動している可能性を示唆する結果となりました。

遺産地域内の主要越冬地４ヶ所における、
航空カウント調査によるエゾシカ発見密度の経年変化




知床岬地区では2007年、ルサー相泊地区では2010年、幌別ー岩尾別地区では2011年から、環境省事業による冬期のエゾシカ捕獲が本格的に開始され、知床財団は受託業者として現場での捕獲作業に従事している。

ルシャ地区は比較のために捕獲を当分実施しないで推移を見守る地区とされているが、おそらく自然死亡や前述したような他地区への移動等により、捕獲していないのに減ることがある。

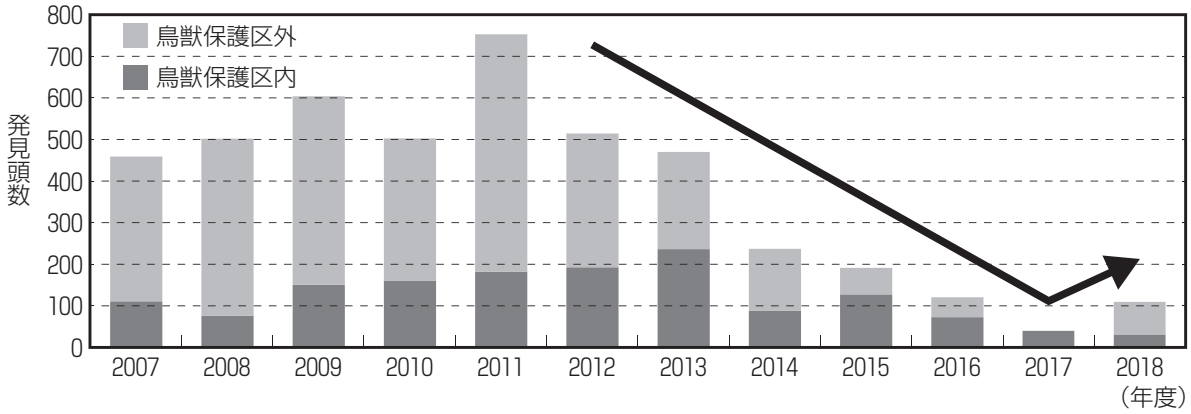
エゾシカの調査・対策

# エゾシカ個体群の動態に関する調査業務

エゾシカが増えているのか、減っているのか、その傾向を把握することは知床半島の環境保全対策を考えるために重要です。半島西側基部寄りの斜里町真鯉地区はエゾシカの主要な越冬地ですが、行政が行う調査対象地区から外れているため、知床財団が独自で国道上からエゾシカの日中カウントを毎年行っています。2018年度は冬期間に計5回実施しました。調査日は原則として猟期を外して設定し、3月下旬には最多で110頭のエゾシカが確認されました。最大確認頭数は2014年度から2017年度は減少傾向でしたが、恵庭市で発生した狩猟事故を受けて、1月15日以降の国有林での狩猟が禁止された2018年度は増加に転じました。

また、ルシャ地区において2014年および2016年に生体捕獲してGPS首輪を装着した計14頭のメスジカ（環境省事業）について、環境省事業終了後の2018年度は知床財団独自で追跡調査を実施しました。2017年度までに3頭の首輪が脱落しており、2018年度は残り11頭のうち1頭が首輪脱落、3頭電池切れ、1頭がヒグマに捕食されました。残り6頭はルシャ地区での生存が確認されています。

斜里町真鯉地区のエゾシカ日中カウントによる年度別最大確認数の年次推移




林野庁によるエゾシカ捕獲事業が開始された2013年度以降、本調査によるエゾシカ発見数は減少傾向にある。

▲GPS首輪装着シカの1例.

## エゾシカの採食による植生への影響調査業務

環境省>さっぽろ自然調査館/F1

エゾシカを減らした地区できちんと植生が回復しているか、減らしていない地区ではどの程度悪化しているのかを調べるための現地調査が毎年行われています。今年度知床財団では、知床岬地区の調査をサポートしました。

▲知床岬での植生調査の様子.

会議運営

## 科学委員会運営業務

環境省/C6

知床世界自然遺産地域の管理の根幹を、科学的な見地から支えているのが科学委員会とその付属会議です。知床財団は科学委員会本体会議(8/24 羅臼町、3/6 札幌市）とエゾシカ・ヒグマワーキンググループ会議（5/24-25、11/19-20 ともに釧路市）の運営事務局として、日程調整、会場準備、資料作成、議事録作成、地元向けニュースレターの作成などを担いました。また、2017年度における遺産地域の管理状況や出来事などを取りまとめた「知床白書」を作成しました。

▲収容されたエトロフウミスズメ.

その他

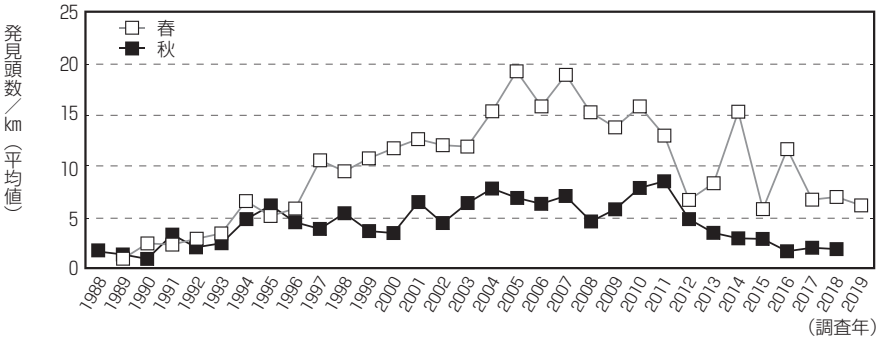
## 斜里町自然環境対策業務 斜里町/A2

斜里町から受託している、ヒグマ以外の野生鳥獣の保護・対策と自然環境全般の保護を目的とした業務です。斜里町内において2018年度に回収などの対応を行ったゴミの不法投棄は51件あり、多くは食品の包装や容器などでした。サケ・マスの遡上シーズンには、釣り人に対してゴミや魚の管理徹底を呼びかける注意看板を、幌別川河口に例年どおり設置しました。

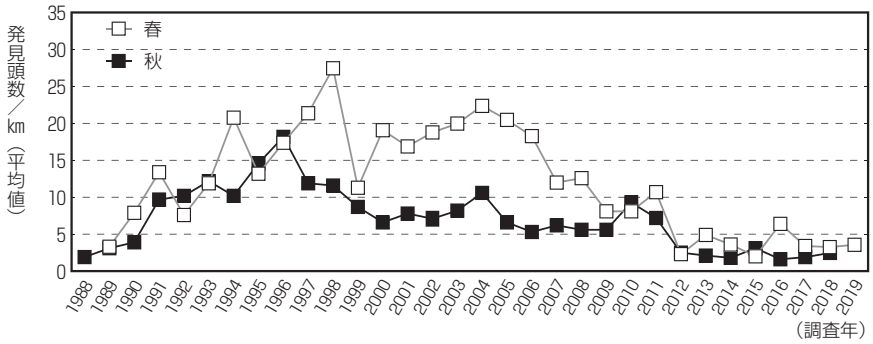
野生鳥獣死体の回収件数は56件、傷病鳥獣への対応は18件でした。エゾシカのライトカウント調査は、春期と秋期に各5回行いました。また、地域住民から苦情が多いウトロの住宅地エリアに定着しているエゾシカについて、吹き矢と箱わなによる捕獲を試み、計13頭を捕獲しました。

幌別・岩尾別地区におけるエゾシカのライトカウント調査結果の経年変化

幌別におけるエゾシカライトカウント調査の結果




岩尾別台地におけるエゾシカライトカウント調査の結果




幌別―岩尾別地区では環境省事業によるエゾシカ捕獲が2011年度の冬期から本格的に開始されており、通年同地区に留まっているエゾシカの数を反映していると考えられている秋の発見数が、ちょうどその頃より減少傾向にある。

一方、春の発見数は越冬のためだけに周辺から移動・流入してきているエゾシカも多数含んでいると推測されており、年による変動が未だに大きい。

▲ウトロ市街地で吹き矢によって捕獲されたエゾシカ.

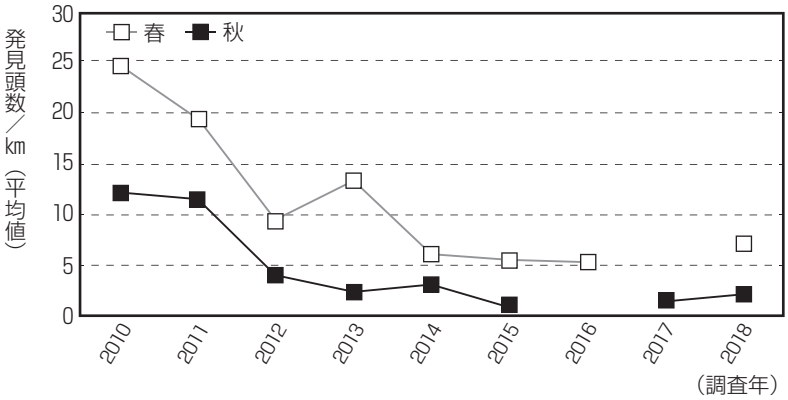
## 羅臼町自然環境対策業務 羅臼町/B2

羅臼町の自然環境に異常がないかどうか監視するため、町内全域（先端部を除く）を対象とした巡視を行いました。2018年度は計43回のパトロールを行い、生ゴミ等の不法投棄への対応が14件ありました。

有害鳥獣捕獲の対象であるエゾシカ等を含む傷病野生鳥獣の対応は35件ありました。このうち、交通事故や敷地内への侵入防止のために設置された漁網に絡まって負傷、または死亡したシカへの対応は9件でした。希少鳥類への対応はオジロワシ2件、オオワシ2件の計4件ありました。また、特定外来生物に関する情報収集や捕獲作業も継続的に行っており、7月にはセイヨウオオマルハナバチの働きバチ14頭を捕獲しました。その他、9月にはオオハンゴンソウの駆除作業を行いました。エゾシカのライトカウント調査は、春期と秋期に各5回行いました。

▲羅臼で保護され無事に放鳥されたオジロワシ.

岩見橋～相泊(10.2km)区間におけるエゾシカライトカウント調査結果の経年変化




岩見橋一相泊区間の国立公園内では、環境省事業によるエゾシカ捕獲が2009年度の冬期から本格的に開始されており、翌2010年度から2012年度にかけて大幅に減少し、その後若干の増減を繰り返し低密度を維持していることを示している。

なお、2016年度秋と2017年度春は、調査区間で発生した土砂崩れのため未実施となっている。

▲シカのライトカウント調査の様子.

その他

## 網走市ヒグマ・エゾシカ生息状況調査 網走市/F2,F3

網走市鳥獣被害防止対策協議会（網走市）からの依頼を受け、エゾシカとヒグマの生息状況調査を網走市内で実施しました。エゾシカについては、農業被害と密接に関連するエゾシカの生息状況を調べるため、網走市内に設定した4つのルートで、11月上旬に3夜、ライトカウント調査を実施しました。またヒグマに関しては、効果的なヒグマ対策を実施するための基礎資料を作成することを目的に、ヒグマ出没時の現地調査や糞分析調査、自動撮影カメラ調査を実施しました。

## 希少鳥類などの長期モニタリング業務

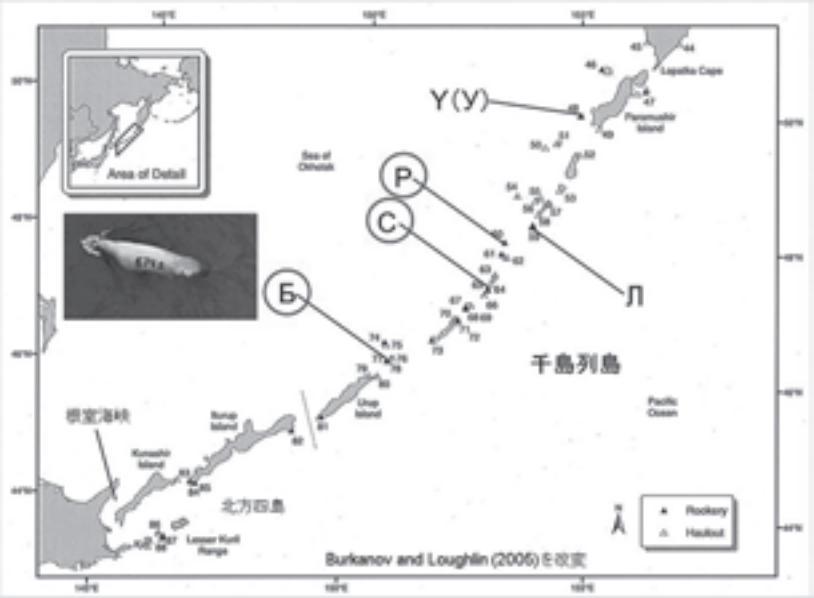
知床で繁殖している希少種のオジロワシについて、各種団体や個人が独自に進めている調査データを統合、集約し情報を共有することを目的として活動している「オジロワシ長期モニタリンググループ」の事務局を引き続き担いました。会議は12月3日に斜里町内で開催しました。知床財団が調査担当となっているオジロワシの営巣木については、当年の営巣の有無や雛数などについて調査、および情報収集しました。また、冬期の観光船による餌まきという生物保全と観光との間で課題を抱える海ワシ類（オオワシ、オジロワシ）については、餌の量と海ワシ類の分布の関係などについての情報収集ととりまとめを、観光船事業者の協力を得て引き続き実施しました。

▲モニタリングの対象となるオジロワシの巣.

▲自動撮影カメラを設置する職員.

## 海生哺乳類モニタリング業務

知床では世界自然遺産地域に関する定期的な保全状況報告書を政府がユネスコに提出するたびに、審査機関であるIUCN（国際自然保護連合）とユネスコからトドの保護管理に関する注文（勧告）を受け続けています。一方で、知床海域に特化したトドの調査はあまり行われておらず、知床財団が10年以上実施しているトド調査のデータは、数少ない貴重なデータとして政府の保全状況報告書にも引用されています。2018年度も、冬期にトドの来遊海域となっている羅臼町から標津町北部の沿岸各地において陸上の定点からのドローン（無人航空機）による調査を継続しました。沿岸の遊泳群を上空から撮影し、群れに含まれている標識個体の確認に努めました。今年度の冬期に確認した標識個体は計9頭で、すべて中部千島で出生した個体でした。また上記9頭のうち6頭（66.7 %）は、前年度以前にも知床で確認された個体でした。さらに、北海道区水産研究所や稚内水産試験場が解体・サンプリングを実施した後のトド駆除個体の残滓の運搬・処分をサポートしました。




▲トド焼き印と繁殖地の関係.

根室海峡で発見される一部のトドに認められる焼印標識の一文字目（キリル文字）と、各標識個体の出生地（繁殖場）の位置関係

その他

## 水域における生物群集モニタリング業務

羅臼町では深層水を汲み上げて産業利用をしています。汲み上げられた水には様々な深海生物が含まれています。2018年度についても、羅臼町の深層水汲み上げ施設で各種生物を収集しました。また、知床の海域で採集された魚類については種を同定し、生息魚種のリスト作成を進めました。

## 知床半島におけるヒグマ捕獲情報の収集業務

「知床半島ヒグマ管理計画」の対象地域である斜里、羅臼および標津の3町において、特に町外在住ハンターによる狩猟期のヒグマ捕獲に関する情報およびDNAサンプルの収集を目的として、協力いただいた狩猟者に報奨品（オリジナルバッジ）を配布するキャンペーンを継続しました。また、標津町において捕獲されたヒグマのサンプリング支援など連携体制の強化を図りました。

## 学術的な交流と成果公表に関する業務

### 学会口頭発表

○下鶴倫人（北大），白根ゆり（北大），釣賀一二三（道総研），山中正実，中西将尚，石名坂豪，葛西真輔，能勢峰（知床財団），増田泰（斜里町），間野勉（道総研），坪田敏男（北大）．知床半島ヒグマ個体群におけるマルチプルパターニティと近親交配の発生率．　日本哺乳類学会2018年度大会　信州大学（伊那市）　2018年9月

○小川洋平（知床財団）．知床国立公園におけるヒグマの現状と対策活動．（自由集会「知床国立公

※下線は知床財団の職員

▲11月の「野生生物と社会」学会にて．

園における野生動物観光に対するICTの影響と課題」） 第24回「野生生物と社会」学会大会（九州大会） 九州大学（福岡市） 2018年11月

○能勢峰（知床財団）．知床国立公園のヒグマ観光とSNSによる記録・拡散の現状（自由集会「知床国立公園における野生動物観光に対するICTの影響と課題」） 第24回「野生生物と社会」学会大会（九州大会） 九州大学（福岡市） 2018年11月

## 学会ポスター発表

○石名坂豪，増田泰，下鶴倫人（北大），山中正実（知床財団）．「知床半島ヒグマ管理計画」運用上の課題．2014-2018年の子グマ緊急捕獲6例および捕獲未遂2例からの考察． 第24回日本野生動物医学会大会 大阪府立大学（泉佐野市） 2018年9月

○山中正実（知床財団）．知床半島におけるエゾシカに対するヒグマによる捕食の長期的変化．日本哺乳類学会2018年度大会 信州大学（伊那市） 2018年9月

○山中正実・新藤薫・清成真由（知床財団）．知床半島における人に対するヒグマの反応の長期的変化．第24回「野生生物と社会」学会大会（九州大会） 九州大学（福岡市） 2018年11月

## シンポジウム等口頭発表

○能勢峰（知床財団）．知床国立公園のヒグマ観光とSNSによる記録・拡散の現状．第12回北海道の今後のヒグマ研究を考えるワークショップ 新得温泉ホテル（新得町） 2019年3月

○小川洋平（知床財団）．水産加工場におけるヒグマ対策新手法の検討．第12回北海道の今後のヒグマ研究を考えるワークショップ 新得温泉ホテル（新得町） 2019年3月

○山中正実（知床財団）．知床国立公園・知床世界自然遺産地域およびその周辺地域におけるヒグマの生態と保護管理について．第12回北海道の今後のヒグマ研究を考えるワークショップ 新得温泉ホテル（新得町） 2019年3月

## その他

### 博士学位論文

○山中正実（2019） 知床国立公園・知床世界自然遺産地域、および、その周辺地域におけるヒグマの生態と保護管理について．早稲田大学大学院人間科学研究科博士学位論文，144pp.

### 学術誌

○Yuri Shirane, Michito Shimozuru, Masami Yamanaka, Hifumi Tsuruga, Saiko Hirano, Natsuo Nagano, Jun Moriwaki, Masanao Nakanishi, Tsuyoshi Ishinazaka, Takane Nose, Shinsuke Kasai, Masataka Shirayanagi, Yasushi Masuda, Yasushi Fujimoto, Masahiro Osada, Masao Akaishi, Tsutomu Mano, Ryuichi Masuda, Mariko Sashika, Toshio Tsubota (2018)
Sex-biased natal dispersal in Hokkaido brown bears revealed through mitochondrial DNA analysis.
Europian Journal of Wildlife Research 64:65 https://doi.org/10.1007/s10344-018-1222-x

○Michito Shimozuru, Yuri Shirane, Hifumi Tsuruga, Masami Yamanaka, Masanao Nakanishi, Tsuyoshi Ishinazaka, Shinsuke Kasai, Takane Nose, Yasushi Masuda, Yasushi Fujimoto, Tsutomu Mano, Toshio Tsubota (2019)
Incidence of multiple paternity and inbreeding in high-density brown bear populations on the Shiretoko Peninsula, Hokkaido, Japan.
Journal of Heredity esz002 https://doi.org/10.1093/jhered/esz002

## 紀要・報告書・商業誌

○石名坂豪（2018）知床半島のヒグマの現状．国立公園内で進む人なれと分散先で死んでいくクマたち．北海道ネーチャーマガジン モーリー 50: 14–17.

○能勢峰（2018）クマと人を守るためのルール．デナリ国立公園に学ぶ． 北海道ネーチャーマガジン モーリー 50: 18–19.

○葛西真輔（2018）ヒグマの特徴と暮らし～知床を中心に～．キムンカムイとアイヌ．春夏秋冬．公益財団法人 アイヌ民族文化財団pp.204-207.札幌

## 書籍

○石名坂豪（2019）知床半島のヒグマの現状．国立公園内で進む人なれと分散先で死んでいくクマたち．（北海道新聞野生生物基金・北海道新聞社 編：となりの野生ヒグマ．いま何が起きているのか）pp.103–113. 北海道新聞社，札幌.

## 知床ゼミ

外部研究者や職員を発表者とした勉強会を計6回開催しました。知床財団職員や関係機関等を含め、のべ86名の参加がありました。

# JBN業務 JBN/F4

日本クマネットワーク（JBN）からの受託業務として、JBN会員向けニュースレター「Bears Japan」の発送、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」の発行・販売、JBNホームページの運営管理を行いました。年3回発行のJBN会員向けニュースレター「Bears Japan」は会員や関係機関に、のべ1,001件発送しました。また、「ヒグマとの遭遇回避と遭遇時の対応に関するマニュアル」については、店頭および通信販売を通じて計49部を販売しました。ホームページについては、日常的な掲載内容の更新をJBN事務局と連携して実施しました。

■日本クマネットワーク
http://www.japanbear.org/

公益事業 国立公園管理事業

施設の管理・運営

# 知床自然センター

## 施設の管理と運営 斜里町/A3

知床自然センター及び周辺施設の維持管理、映像ホールの運営と料金徴収等の業務を行いました。今年度の知床自然センター入館者数は219,191人で前年度比113%となり、7年ぶりに20万人の水準を超えました。また、映像ホール入館者数は17,673人（前年度比132%）となり、こちらも大きく増加しました。

## ビジター向けインフォメーション・環境教育

### 1）インフォメーションカウンターの運用

フィールド情報の受発信と外国人利用者への対応を核としたインフォメーション機能の充実を図りました。リアルタイム情報の受発信の強化のため、twitter等のSNSの運用を継続したほか、知床国立公園内の施設、観光船、遊歩道等の開閉・運用等の状況が一覧できるポータルサイト「知床情報玉手箱」を重点的に運用しました。

### 2）レクチャーコーナーの活用と普及啓発事業の実施

レクチャーコーナーにおいて、知床の自然の魅力や財団の取り組みを分かりやすく伝える「知床財団スタッフトーク！」を4月20日から10月19日までの期間、毎日1回実施し、1,175名の参加がありました。実施時には、併せて知床財団の活動ＰＲも行い、募金を募りました。館内に設置した2カ所の募金箱と併せ、今年度の募金総計額は851,515円でした。

▲スタッフトークの様子.

▲リニューアルされた「MEGAスクリーン KINETOKO」のエントランス.

### 3）映像ホール「KINETOKO」の運用刷新

2018年度は四季知床の後継作品の制作が本格的に始まりました。映像ホールのリブランディングのため、リニューアルしたホールの愛称を「MEGAスクリーン KINETOKO」とし、ホールの入り口も改修し、デザインを一新しました。

また、ソフト面においては、今まで通常1作品を定常的に上映していたところ、毎日2～3作品を通年上映しました。

### 4）常設展示・企画展示室の立ち上げと運用

企画展示室においては、年2回の企画展を実施したほか、ミニギャラリーでの写真展も継続し、5回の写真展を行いました。

▲知床のヒグマ展で展示した骨格標本.

ミニギャラリーと企画展示室の年間展示

| ミニギャラリー |
|---|
| 田中豊美原画展(2-5月) |
| 「知床のシダ」-内田暁友写真展-（5-7月） |
| 「いのち輝く知床」-広木忠雄写真展-（7-10月） |
| 知床写真クラブ写真展（12-1月） |
| 知床羅臼写真クラブ写真展（1-3月） |

| 企画展示室 |
|---|
| 知床のヒグマ展（4-9月） |
| 知床自然センターの30年展（9-3月） |

## 施設の管理・運営

### 広報・記念イベントの実施

知床自然センター開館・知床財団設立30周年を記念し、ホロベツ地区の園地・施設の今後のあり方を象徴するイベントとして「第1回知床アウトドアフィルムフェス」を企画、実施しました。具体的には、①カナダのバンフ国立公園で毎年開催されている山岳映画祭のワールドツアーを映像ホールで開催 ②2020年公開予定の新映像のプロモーション ③ホロベツ園地を活用した野外アクティビティ ④地元ガイドと連携した屋外プログラム⑤アウトドアブランドを中心としたグッズの販売 ⑥地場産の食材を活かしたフードメニューの提供などを実施しました。会期中の来場者数は約1,500名となり、通常の約3倍の入館数を記録し、近隣地域のみならず遠方を含め多くの来場者で賑わいました。

3月には地域向けのイベントとして「知床自然センターの映画会」を開催し110名の来場がありました。

知床自然センターの展示やイベント、最新の取り組みを紹介する「知床自然センターだより」の発行を継続しました。ウトロの宿泊施設および観光関係施設（全27施設）に配布し、宿泊者への情報提供に活用いただいています。

▲第1回知床アウトドアフィルムフェスのポスター.

▲バンフ・マウンテン・フィルム・フェスティバルの様子.

▲ツリーイングを楽しむ子供たち.

▲知床アウトドアフィルムフェス中出店されたマーケット.

## 知床自然教育研修所 斜里町/A3

知床財団が維持管理を担う知床自然教育研修所は、知床の保全活動を行う人々が滞在するためになくてはならない施設です。2018年度は知床で調査を行う外部の研究者や森づくりを手伝ってくださるボランティアの方を中心に1,238人泊の利用がありました。

## 羅臼ビジターセンター

### 施設の管理と運営 羅臼町/B3 環境省/C7

羅臼ビジターセンターの来館者数は45,855名で前年度比は107%となり、過去最多の来館があった昨年度をさらに上回りました。知床国立公園内の羅臼町側の主要な利用拠点（羅臼湖、羅臼岳、熊越えの滝、羅臼温泉園地等）の自然情報、利用状況や野生動物の生息状況等を収集する巡視を積極的に実施し、カウンタースタッフ自らが現地で得た情報を館内での情報提供に活用しました。また、自然観察会を4回、特別展示を6回、町民向けイベントを2回開催し、利用者の方々に普段とは違うビジターセンターを楽しんでいただきました。このほか、ビジターセンターに隣接する間歇泉の噴出時刻を予測し、来館者に提供しました。

▲情報収集のため知床連山を巡視する職員.

## 施設の管理・運営

### ビジター向けインフォメーション・環境教育

来館者に対し、館内展示をより深く知っていただくためのミニレクチャーを実施しました。2018年度は7月から9月の繁忙期に計17回実施し、148人の方にご参加いただきました。

また、冬期間の利用者によりビジターセンター周辺を楽しんでいただくために、ビジターセンターの裏手から間歇泉やキャンプ場をめぐるスノーシューコースを昨年に引き続き運用し、積雪時期の新たな公園利用の提案を行いました。

▲来館者にレクチャーする職員.

▲スノーシューコースの看板設置.

## 羅臼研究支援センター 羅臼町/B3

知床財団が維持管理している羅臼研究支援センターは、知床世界自然遺産地域およびその周辺地域の保全管理にかかわる調査研究などを行う人々が利用できる宿泊施設です。2018年度は外部の研究者を中心にのべ35名、180泊の利用がありました。

## 知床五湖園地

### 施設の管理と運営 斜里町/A4

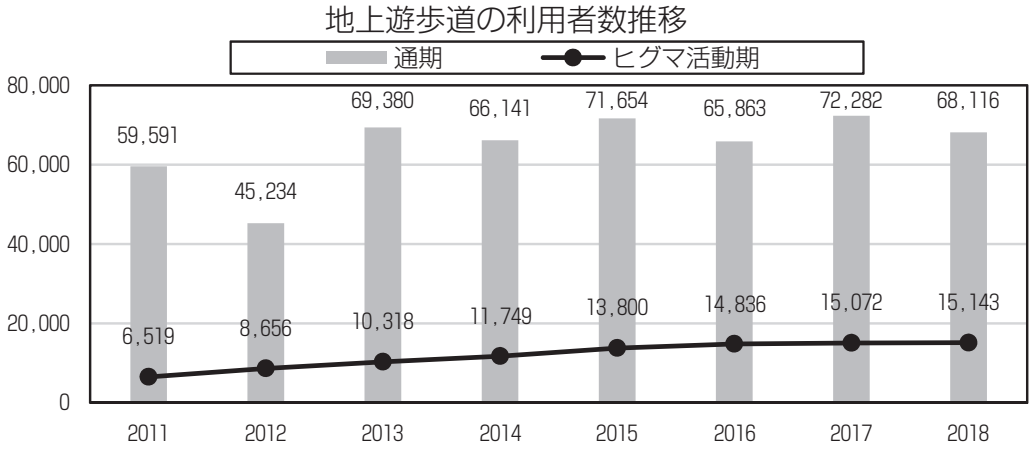
開園期間中、知床五湖園地への給水設備の維持管理を行いました。開園前の4月上旬には、水源地から園地までの通水作業を行い、閉園時の11月中旬には停水作業に併せて台風の影響により破損した給水設備の補修を行いました。また、キャンプやゴミの投げ捨てなどヒグマを誘引するような行為を防止するため、知床五湖の駐車場の夜間閉鎖をシーズンを通して行いました。

▲知床五湖への通水作業の様子.

## 施設の管理・運営

### 知床五湖利用調整地区の運営 環境省/C8 知床ガイド協議会/F5

知床五湖園地の一部では、自然の保全と持続的な利用の両立を図るため、利用者の立ち入り人数等をコントロールする利用調整地区制度が導入されています。知床財団は知床五湖利用調整地区の指定認定機関（環境大臣指定）として4月から11月まで現地に職員を常駐させ、遊歩道のコンディションや自然情報等の情報を収集し、SNS等も用いたリアルタイム情報の発信を行いました。特に、外国人対応として、展示物や案内物の英語表記やピクトグラム化を強化しました。また、ヒグマ活動期には、知床ガイド協議会と協力しガイドツアー情報や当日のツアー参加希望者への案内サービスを継続しています。




利用調整地区制度の導入から8年目となる2018年度の地上遊歩道の利用者数は68,116人でした。

2013年度以降の地上遊歩道の利用者数は約65,000人から約72,000人で推移してきていますが、ヒグマ活動期の利用者数は年々増加しており、ガイドツアーのニーズが年々高まっています。

▲地上遊歩道利用者にレクチャーする職員.

▲カウンターでの受付業務の様子.

## 知床五湖の魅力向上事業

知床五湖の利用システムを広く地元の皆様に体験してもらうため、「知床五湖ローカル割引キャンペーン」を継続して実施しました。このキャンペーンでは、斜里・羅臼の両町民に対し地上遊歩道を利用する際に発生する立ち入り認定手数料を知床財団が負担し、実質無料とするもので、2018年度は、98組202名の適用がありました。

# ルサフィールドハウス

## 施設の管理と運営 羅臼町/B4 環境省/C9

ルサフィールドハウスは知床半島先端部を目指す人々へその魅力や楽しみ方、安全管理など様々な情報を提供するための施設です。2018年度の開館期間は4月から10月の7ヶ月間となりました。来館者数は9,132人で前年度比は115%、開館以来最多の来館があった2017年度よりも、さらに1,000人以上多い来館者数となりました。また、知床半島先端部地区へ立ち入る利用者に対しては、引き続きルールを含めた最新情報や留意点等についてレクチャーし、こちらもこれまでで一番多く63件、103名に実施しました。今後もレクチャー内容や装備の貸し出しについて検討を行っていきたいと思います。

▲知床半島先端部利用者へのレクチャーの様子.

▲カムイワッカ湯の沢の様子.

## 施設の管理・運営

### ビジター向けインフォメーション・環境教育など業務

知床半島中央部地区及び先端部地区利用者に対し、立ち入る際の留意事項と禁止事項等についてレクチャーを実施しました。一般来館者へは施設展示を活用しながら、数多くの鯨類が利用している羅臼の海の豊かさなどのついてお話しするとともに、フィールドハウスの2階から観察できる鯨類のことなどを解説しました。

## 知床国立公園利用の適正化

### カムイワッカ地区の運営

知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会/F6, 斜里バス/F7

夏の繁忙期間中は、知床五湖とカムイワッカ湯の滝の混雑緩和と環境保全を目的に、マイカーの乗り入れが規制され、シャトルバスが運行されています。円滑なマイカー規制を実施するための連絡調整業務を自動車利用適正化対策連絡協議会から受託し、知床自然センターを拠点に、バス会社や各地に配置された警備員や巡視員との連絡調整、利用状況の調査や利用者への情報提供、危急時の一時対応や連絡整理などを行いました。また、マイカー規制期間には湯の沢の安全指導や情報収集を行う監視員を配置しました。

知床自然センターでは、シャトルバスのチケット販売事業をバス事業者から受託し、来館者が乗車券の購入や目的地の情報収集をワンストップで行える体制を作りました。

▲知床五湖の登録引率者による研修の様子.

知床国立公園利用の適正化

# 知床五湖などの利用適正化の検討

## 知床五湖など利用適正化検討業務 環境省/C8,C11

知床五湖やカムイワッカといった、主要な観光地の適正利用や運用方法について、地域や行政関係者との合意形成を図り、科学的なデータに基づく利用のあり方を検討することを目的として、各種調査の実施や会議等を開催しました。

また、知床五湖におけるヒグマ活動期の運用を担う登録引率者のスキルアップや情報共有を進めることを目的とした各種研修の準備や実施を行いました。

▲知床五湖登録引率者になるための研修の様子.

## 知床五湖利用適正化計画改定実験の企画実施 環境省/C11

知床五湖利用調整地区の管理運営方針である「利用適正化計画」は3年を目安に評価、見直しをすることとなっています。本業務では、利用適正化計画改定の方向性や妥当性を検証するためのデータ取得を目的としたモニタリングや実証実験を企画・運営しました。知床五湖は、「ヒグマ活動期」「植生保護期」といった期間によって利用のルールが大きく異なることから、これの妥当性や変更案を検討するための実験を春期と秋期の2回に分けて行いました。

# 知床エコツーリズム総合推進事業

よりよい公園利用のあり方を目指し様々な協議や試行事業に参加しています。知床では近年、地域提案型の利用のあり方やルール作りの仕組みが確立されつつあります。知床財団もこうした取り組みに参画しており、当財団が2015年度に提案し立ち上がった「外国人旅行者向け情報発信の強化」部会を自ら運営しました。この部会の事業として、情報ポータルサイト「知床情報玉手箱」を構築し、運用を行っています。

知床国立公園利用の適正化

## ルサフィールドハウス周辺整備構想検討業務

2015年3月の理事会でコンペ形式で発表したルサ地区の整備構想の中から、先行して実現可能な事業としてルサフィールドハウスでの「ルサカフェ」を2015年9月から実施していますが、2018年度も7月20日～7月22日の3日間と、9月12日～9月17日の6日間実施しました。今年度は期間中にのべ1,195名の方にカフェを利用していただきました。

また、ルサフィールドハウス裏に植生保護のための防風防雪柵を設置する作業を行い、この活動を周知するための町民イベントを10月7日に実施しました。

今後も事業の実施結果をフィードバックしながら、ルサ地区の整備構想の検討を進めていきます。

▲ルサカフェの様子.

▲「ぼくとわたしとルサの小さい木」イベントにて未来の森を工作する子供たち.

## 知床半島先端部地区 適正利用の啓発及び利用のあり方検討業務 環境省/C12

相泊以北の知床半島先端部地区を含めた知床国立公園の今後のあり方について検討を行うため、地域内の意見をとりまとめる懇談会を3回開催しました。また情報収集のため知床岬までの海岸線トレッキングや知床岳の巡視を行うとともに、利用者に対しても聞き取りも行い、ルサフィールドハウスに情報を集約しました。

## 大雪高原温泉沼めぐりコース管理運営計画再生検討業務 環境省/C13

大雪山国立公園の大雪高原温泉地区に位置する「沼めぐり登山コース」は、ヒグマの生息地としても知られています。コースの入り口には「ヒグマ情報センター」が環境省により設置され、監視員によるパトロールや事前レクチャーなどの安全対策が平成6年より続けられています。一方、利用シーズンの短さ（6月～10月）などがネックとなり、現場の運用体制は不安定な状況です。安定的な担い手の確保や専門的な人材の育成が求められています。利用者数も減少傾向であり、新たな魅力の発掘やエコツーリズムの導入などによる活性化も必要とされています。

ヒグマと観光をめぐるこうした課題は、知床国立公園との共通性も多く、知床でのヒグマ対策や知床五湖での利用調整地区制度などは先進事例として注目されています。本業務は、こうした知床地域での取り組みやノウハウを参考に、高原温泉地区における安全対策の充実や管理運営体制の強化、高付加価値型のエコツーリズムの展開などを目指した管理運営計画案を検討することを目的として実施しました。業務にあたっては、ヒグマ対策と公園管理に現場で携わる職員が継続的に現地を訪問し、現場スタッフや行政関係者とのコミュニケーションを図りながら現地調査等を進めました。

▲高原温泉沼めぐりコースの現地視察.

▲現地スタッフからの聞き取り.

公益事業 森林再生系事業

しれとこ100平方メートル運動

## しれとこ100平方メートル運動地における森林再生業務 斜里町/A5

知床の開拓跡地を乱開発から守るために買い取り、ここにかつてあった自然を取り戻す「しれとこ100平方メートル運動」（斜里町主催）は、1977年の開始から41年が経過しました。土地の買い取りがほぼ終了した1997年からは、運動の第2ステージである「100平方メートル運動の森・トラスト」として本格的な森と生態系の復元に向けた取り組みを進めています。

森や生態系の復元には100年単位の年月がかかることから、運動では20年ごとに中期的な目標と計画を定めています。新たな20年の最初の年となる2018年度は、計画に基づき、ササ地の森林化に向けた作業やかつて運動地内を流れる川に生息していたサクラマスの復元、次世代を担う子どもたちを対象にした知床自然教室など運動を伝えるための取り組みを行いました。知床財団は100平方メートル運動に関わるこれらの現地業務を担っています。

### 森林再生作業

春から秋にかけて、苗畑での除草や苗木の根づくり、樹高6メートル以上の大型苗の移植、老朽化した防鹿柵の補修などの作業を行いました。それらの作業は全て多くのボランティアの皆様にお手伝いをいただきながら進めました。

また、2017年度に引き続き、重機を用いたササ地の掻き起こし作業を行いました。これは、ササに覆われた場所はなかなか他の植物が育つことができないため、ササを掻き起こし勢力を弱めることで新たな木々の更新を促すことを目的とした作業です。

これまでの20年間は、高密度に生息するエゾシカから木々を守るために防鹿柵の設置や樹皮保護ネットを巻く作業などシカ対策に多くの労力を費やしてきました。しかし、ここ近年は、知床の世界自然遺産登録以降に行われているエゾシカの個体数調整の効果によってシカの生息密度の低下が見受けられるようになっています。この状況を受け、新たな20年の計画では、防鹿柵などに頼らない森づくりの手法として、これまでは多くのシカが生息しているため実現できなかったササ地の掻き起こしなどの新たな作業を進める方針となっています。

▲重機でのササ掻き起こし作業の様子.

▲大型苗の移植する職員.

## 生物相復元

100平方メートル運動では、森の復元だけではなく、かつて生息していた生き物の営みを取り戻すことも大きな目標として掲げています。その中のひとつとして、運動地内を流れる岩尾別川にかつて生息していたサクラマスの復元に向けた取り組みを進めています。これまでの20年間（一時中断期間あり）、地元漁業関係者の協力を得て卵の放流を継続し、毎年海から戻ってくるサクラマスを確認する調査を行ってきましたが、その結果は、数尾程度という状況が長く続いていました。しかし、昨年度、初めて二桁となる15尾のサクラマスを確認し、この夏はさらに多い22尾の魚の姿を確認しています。今後も経過を観察する必要はありますが、開始から20年を経て、岩尾別川でも復元への兆しが現れ始めています。今後も岩尾別川の環境改善を進めていくため、これらの結果や現在も残存している岩尾別川のダムの状況などについて、世界自然遺産地域内の河川の管理検討する河川工作物アドバイザー会議にて報告を行いました。

▲サクラマスの親魚.

## しれとこの森交流事業

この息の長い運動を継続していくためには、多くの方々の理解と支援なしには進めることはできません。この知床での取り組みを伝えることも運動開始当初から続けている大きな柱のひとつです。

過去39年間続く知床自然教室は、知床の自然や100平方メートル運動を次世代に引き継いでいくために始まりました。これまでのべ1800名以上の子どもたちが参加し、現在では親の世代となった元参加者の子息も多く参加しています。39回目の開催となる2018年度の自然教室（7月30日～8月5日）には、地元斜里町を始め全国から47名の子どもたちが集まり、知床の森で夏の一週間を過ごしました。その他、92名の皆さんとともトドマツの苗木約150本を知床の大地に植え付けた「第22回しれとこ森の集い（植樹祭）」（10月21日）やボランティアの皆さんと森づくりに汗を流す「第22回及び23回森づくりワークキャンプ」（5月15日～19日、参加者6名／10月30日～11月3日、参加者11名）の企画・運営を行いました。

▲第39回知床自然教室での様子.

## しれとこ100平方メートル運動

### 森林再生専門委員会議運営

森と生態系復元の方針や計画は、動植物の専門家と地元の有識者で構成される森林再生専門委員会議の場で議論が行われその方向性などが定められています。

前年度、この会議の場において2018年度から始まる20年間の目標と計画について議論を重ね、「森・川・人」をテーマに森づくりや生物相復元、そして運動を伝える取り組みを進めていく「第2次中期方針（2018～2037年度）」を策定しました。

今年度の会議では、新たな試みとして進めているササ地の掻き起こし作業の現場などを視察したほか、新たな20年間の1年目となる取り組みの結果報告を行いました。

▲年1回発行している100平方メートル運動の広報誌「しれとこの森通信No.21」.

▲年3回町民向けに発行している「しれとこの森通信ミニ」.

▲「開拓小屋コース」内に自動撮影カメラを設置し日々のヒグマ情報の提供を行っている.

## しれとこ100平方メートル運動に関わる普及推進及び調査事業

知床財団は斜里町と連携を図りながら「100平方メートル運動の森・トラスト」の普及や推進を目的とした独自の事業に取り組んでいます。

運動地を実際に歩き知床の自然と運動地の様子を知っていただくための取り組みとして、「しれとこ森づくりの道」と名付けた遊歩道の開設と運営を行っています。コースは二つあり、その内の一つが、前年度新たに開設した「開拓小屋コース」です。知床自然センターを起点に往復約5kmの道沿いには、開拓当時の家屋や森づくりの作業地が点在しています。なお、このコースでは、ヒグマ対策に関連して先進的なコース運営を行っています。通常、知床の多くの遊歩道では、ヒグマが出没した際は閉鎖や追い払いなどの対応を行いますが、このコースでは基本的に閉鎖や追い払いは行わない方針としています。これは、人間の側が、知床はヒグマを含め野生動物の生息場所であることを知った上で自然を楽しむという本来的な利用の在り方を目指しているものです。その上で、知床自然センターのインフォメーションやコース看板などで注意事項やヒグマの出没状況などの情報周知に力を入れ運営に当たっています。

一方では、この方針のもと、ヒグマの活動場所がコース周辺と重なる季節などはヒグマの生活を優先するために長期的にコースを閉鎖することにもなっています。2018年度は、ヒグマがアリやセミの幼虫を食べるために出没頻度が高くなった6月から7月に掛けての約一月半の期間はコースの閉鎖を行いました。このような取り組みの中、2018年度は、前述の閉鎖期間を除き、4月末から12月上旬までの約7か月間で1,153名の方に「開拓小屋コース」を利用していただきました。

その他、知床自然センターでの運動普及に向けた取り組みとして、斜里小学校や斜里高校などの教育機関の受け入れを行い、教室での授業だけではなく、実際に運動地を歩き100平方メートル運動の取り組みや開拓の歴史について紹介しました。

▲しれとこ100平方メートル運動ハウスで運動について学ぶ斜里の子供たち.

# 第2期ダイキン工業株式会社寄附事業

2011年7月にダイキン工業株式会社、斜里町、羅臼町、知床財団の四者が協定を結び、2016年3月までの約5年間、知床世界自然遺産地域とその周辺地域において自然環境を保全するための事業を実施しました。その後2016年1月に再度四者協定が結ばれ、引き続きダイキン工業株式会社からご支援をいただけることになりました。

本事業は前述の斜里町委託事業である森林再生事業に係わる様々な活動を様々な形でご協力いただいています。開拓以前の森である針広混交林の復元、地元の子供たちを対象とした環境教育活動の支援、知床来訪者への森づくりに関する普及啓発、そしてヒグマと人の共存を支援する活動などに対し、ご支援いただく予定です。

## 多様性に富むしれとこの森を復元する事業

### 100平方メートル運動の森・トラスト及びその関連事業

広葉樹や針葉樹の育成と植樹、森の復元を進める上で障壁となっているエゾシカの対策として、過去に設置した防鹿柵や樹皮保護ネットの補修作業を行いました。また、2003年に設置した全周が約1,000メートル、面積にして約4.5ヘクタールの運動地内で最大の防鹿柵は現在柵を支えている木柱の腐朽が進んでいることから、順次鉄柱に打ち替える作業を進めました。

5月に苗畑で育てた高さ2～5mほどの苗木約50本を、10月には同じく苗畑で育てた153本のトドマツの苗を運動地各地へ植え込みました。11月には森の中から小さなトドマツの苗木を掘り取り、2017年度に新しく造成した苗畑に移植しました。

運動地内には、大小22路線の作業道が配置されていますが、路盤の陥没が生じ、作業に支障をきたすようになってきているため複数年計画で順次各作業道の整備を進めています。今年度は4か所の作業道で重機を用いて砂利を入れる作業を行いました。

9月20日（木）～23日（日）、ダイキン工業社員ボランティアの皆様10名が知床を訪れ、主に羅臼町のルサ地区にて防鹿柵を設置する作業の手伝いをしてくださいました。

2月1日（金）～4日（月）、ダイキン工業社員ボランティアの皆様8名が知床を訪れ、過去に植栽したアカエゾマツ造林地を通る作業道で車の走行に支障となる枝を除去する作業や防鹿柵の補修、樹皮保護ネットの巻き直し作業の手伝いをしてくださいました。ダイキン工業の皆様にお手伝いいただくイベントは今回で15回目を迎えますが、初めて冬の森づくり作業を体験していただきました。

▲防鹿柵の設置を終えたダイキン工業の社員ボランティアの皆さん.

▲「知床自然愛護少年団」と「知床キッズ」共同で実施されたシャチウォッチング.

# 世界遺産の価値を守り、伝える事業

## 次世代を担う子ども達を対象とした環境教育活動への支援活動

しれとこ100平方メートル運動地の現場で地元の小中学校の児童・生徒、高校生や大学生を対象に、運動について知ってもらい理解を深める授業を行いました。2018年度は3組、71名の皆様を受け入れました。

斜里町の知床自然愛護少年団と羅臼町の知床キッズの共同活動費の一部を本事業の寄附金より支援しています。5年目となる今年度は、6月に『シャチウォッチング』というテーマで観光船に乗り、羅臼の海に集まるクジラ類を観察するプログラムを実施しました。乗船前には、羅臼町公民館職員による羅臼の海のクジラ類の事前学習なども行いました。子供たちとスタッフ合わせて52名が参加しました。この活動の1隻分の傭船料を、本事業の寄附金により支援しました。

## 観光客の皆様へ森林復元の取り組みを伝える活動

知床自然センター館内のレクチャースペースで来館者の方に「しれとこ100平方メートル運動」の歴史や活動を伝える取り組みを行いました。2018年度は16回のレクチャーを行い、100名の皆様に聴講していただきました。

▲羅臼で電気柵を設置する職員.

## ヒグマと人の共存を手助けする活動

羅臼町で実施している本事業は、2011～2015年度の5年間に実施された第1期に続いて2016年度からは第2期を迎えています。第1期では、人が暮らしを営むエリアにヒグマが出てこないように、町内に電気柵を設置しました。第2期の3年目となった2018年度は、1期で設置した電気柵の維持管理に加え、ヒグマが身を隠して餌場や移動の場として好んで利用するような住宅地近くの藪を町内各所で刈り払いました。藪の刈り払いを実施した場所では目撃が減少して、刈り払いがヒグマの出没を抑制する効果が十分あることがわかりました。今後もより効果的な方策を検証し、地域の皆様と協働で継続していける体制の構築を目指していきます。

# 収益事業

▲アウトドアメーカー・フェニックスとのコラボレーションで販売したオリジナルTシャツ.

知床財団は、知床世界自然遺産地域の保全に役立つ基礎的な調査や地元の小中学校への出前授業や観光客へのトークプログラムの提供を行っています。また、漁業や農業、観光業といった知床を代表とする産業の持続的発展と自然保全の両立を目指す取り組みなど、知床のために必要と思われる事業を独自で行っています。

収益事業で得られた収益はそれら独自事業を行うための主な財源となっています。

## 販売・有償貸出業務

### 直営店の運営

知床自然センターおよび羅臼ビジターセンターでは、知床財団の直営店舗として知床の自然に関する書籍、散策や登山に役立つアウトドアグッズ、知床財団の活動普及のためのオリジナルグッズなどを販売しています。電話やファックスで注文を受け付ける通信販売やオンラインショップ「コムヌプリ」での販売を含め、24,535,680円の売上でした。

### オリジナル商品の開発

株式会社フェニックスとのコラボレーション商品、オリジナルTシャツは2018年度で8年目を迎え、デザインも新たに計850枚販売しました。今回は全国各地のフェニックス直営店などでも販売し、大変好評で年度内に完売しました。そのほか、株式会社モンベルのサーモボトルとのコラボレーション商品や知床財団名前入りのカラビナも作成しました。

▲アウトドアメーカー・モンベルとのコラボレーションで販売したオリジナル商品.

▲知床自然線センターでのレンタルサービス.

## レンタルサービス

知床自然センター、羅臼ビジターセンターおよびルサフィールドハウスで、ヒグマ撃退スプレーとフードコンテナの貸し出しを行っています。2018年度は、ヒグマ撃退スプレー473件、フードコンテナ36件を貸出しました。貸出の際には、契約内容や使用方法、ヒグマとの危険な遭遇を回避する方法についてレクチャーを行いました。

また、知床自然センターおよび羅臼ビジターセンターで長靴の有料貸し出しを行っています。2018年度は知床自然センターでは長靴3,376件、羅臼ビジターセンターでは79件の利用がありました。

さらに、観光客の皆様により深い自然体験をしていただくために知床自然センターでは双眼鏡、ポールおよびスノーシュー（冬期のみ）の有料貸し出しも行っています。双眼鏡251件、ポール163件、スノーシュー1,163件の利用がありました。

# 研修実習受入業務

道内外の各種団体から依頼された講演、レクチャー、行政視察、原稿執筆等に対応することにより、知床の価値を紹介、または、知床財団の持つ野生動物保護管理や調査研究、公園管理、環境教育のノウハウを広く提供・共有する活動を行いました。2018年度は53件実施し、3,316,891円の収入がありました。

▲北見工業大学の実習対応中の職員.

2018年度研修・講演・視察対応など受け入れ実績

| | 対象 | 内容 |
|---|---|---|
| 研修実習 | 北海道島牧郡島牧村 | ヒグマ対策研修 |
| | 神戸動植物環境専門学校ワイルドアニマルコース | ヒグマに関するレクチャーなど |
| | 東京農業大学・世田谷キャンパス | 羅臼の自然について |
| | JICA研修 | 世界自然遺産のマネジメントならびにコントロール |
| | JICA研修 | 財団活動、人々に自然・野生動物を望ましい形で見てもらうための調査・管理・制度 |
| | 札幌科学技術専門学校 | 知床における保護と管理に関する講義、実地検分 |
| | 北見工業大学 | 知床の自然環境や保護活動について |
| | 東京農業大学生物産業学部 | 東農大生物産業体験実習「森の学校」 |
| | 駿河台大学 | 100平方メートル運動地体験学習 |
| | 北海道大学獣医学部 | 知床実習 |
| | 士幌高校 | 100平方メートル運動地見学及び森づくり実習 |
| | 北海道森林ボランティア協会 | 森づくり実習 |
| | 酪農学園大学 | 野生動物保全技術実習 |
| | エジンバラ大学（北海道大学） | ヒグマ、シカの生態と保護管理 |
| | 羅臼漁業協同組合 | 漁業と資源の関係について |
| 講演 | ぱしふぃっくびいなす | 世界遺産知床の魅力について |
| | 札幌市定山渓自然の村 | クマ対策レクチャー |
| | 東京農業大学　生物産業学部学術情報課程博物館情報学研究室 | 学芸員養成課程の授業の実施 |
| | 西興部村教育委員会 | 地域学講座（ヒグマの生態） |
| | 岡山白陵高等学校 | 知床の生態系やシカ捕獲等保全活動などについて |
| | 西武学園文理小学校（4年生） | 知床について |
| | 北海道建築士学会 | 国立公園内ビジターセンターとして必要な機能 |
| | 遠軽町観光協会 | 知床の自然と観光 |
| | 長野大学（高橋ゼミ） | 知床財団の活動及びヒグマの保護管理等 |
| | 根室振興局 海獣被害防止対策連絡会議 | 根室海峡に来遊するトドの出生地と動向 |
| | 阿寒摩周国立公園エゾシカミーティング | 知床国立公園におけるエゾシカ捕獲 |
| | 野生生物と交通 研究発表会 | 知床におけるヒグマ渋滞 |
| | しれとこ村　ホテル地の涯 | クマ対策レクチャー |
| | 北海道漁業協同組合連合会　釧路支店 | ヒグマの生態について |
| | きたネットフォーラム | 知床自然教室について |
| | 北方四島在住ロシア人訪問団住民交流会 | 知床半島沿岸域に生息する魚類 |

| | 対象 | 内容 |
|---|---|---|
| 視察 | やんばる3村世界自然遺産推進協議会 | 遺産管理等の課題について |
| | ロシアビキン国立公園 | 国立公園指定地域や世界遺産登録地におけるツーリズムのあり方 |
| | 山武郡市市町会視察研修 | 知床におけるエコツーリズムについて |
| | 沖縄県議会 | 世界遺産登録に至るまでの経緯、知床のルールなどについて |
| | 佐世保市議会 | 世界遺産の課題と管理 |
| | 三重県大紀町町議・商工観光視察（三重大学金岩准教授引率） | 知床自然センター視察 |
| 環境教育 | 標津町中学校クマ授業（樹木博士プログラム内） | クマ授業 |
| | 斜里町朝日小学校 | 知床の観光について |
| | 基督教独立学園　修学旅行対応 | 知床の概要レクチャーとフレペ引率 |
| | 北海道羅臼高等学校（2年生） | クマ授業 |
| | 羅臼町一般町民向けヒグマ対策講演 | ヒグマ対策講演 |
| | 北海道立斜里高等学校（3年生） | 知床自然概論 |
| | 斜里町立斜里小学校（4年生） | 100平方メートル運動地体験学習 |
| | 羅臼町立春松小学校（3・5年生） | クマ授業 |
| | 知床ウトロ学校 | クマ授業 |
| | 斜里小学校（3年生） | ヒグマレクチャー（フレペ散策前） |
| | 羅臼町立春松幼稚園 | クマ授業 |
| | 斜里町立斜里中学校 | キャリア学習 |
| | 羅臼町立知床未来中学校 | クマ授業 |
| アドバイザー | 一般社団法人エゾシカ協会 | エゾシカに関するヒアリング |
| | 網走市 | 箱わなの運営指導 |

# 財団法人管理運営業務

## 財団法人管理運営業務

理事会は、第1回理事会（5月）は、「平成29年度事業報告及び決算報告、監査報告、定時評議員会の招集、役員の改選に伴う名簿の提出、賛助会員入会承認」について審議しました。第2回理事会（6月）は、「代表理事の選定」について審議しました。第3回理事会（10月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第4回理事会（12月）は、「賛助会員入会承認」について審議しました。第5回理事会（3月）は、「平成31年度事業計画（案）、収支予算（案）、資金調達（短期借入金）の限度額の設定、就業規則の一部改正、給与規程の一部改正、賛助会員入会承認」について審議しました。

定時評議員会（6月）は、「平成29年度事業報告及び決算報告、監査報告、任期満了に伴う役員の選任、定款の一部改正」について審議しました。

役　員

| | |
|---|---|
| 理事長 | 村田良介 |
| 副理事長 | 佐々木泰幹 |
| 理事 | 鈴木完也 |
| 〃 | 蠣崎優 |
| 〃 | 工藤勝利 |
| 〃 | 砂山裕子 |
| 〃 | 涌坂周一 |
| 監事 | 中川元 |
| 〃 | 髙嶋淳 |
| 評議員長 | 高橋一三 |
| 評議員 | 吉野弘志 |
| 〃 | 遠山和雄 |
| 〃 | 金澤裕司 |
| 〃 | 吉野英治 |
| 〃 | 小川雅勝 |
| 〃 | 任田勉 |

※2019年3月31日現在

# 知床財団設立30周年記念事業

▲30周年記念ロゴ.

## 記念イベント・グッズ販売等

2018年度、知床財団は設立30周年、知床財団が管理運営する知床自然センターも開館30周年を迎えました。30周年を機に、2003年に制定した「知床財団の21世紀ビジョン」を踏まえ、次の10年という期間の中で進めていく具体的なプロジェクトを定めた「知床財団10年プロジェクト」を役員の皆様のご意見、ご助言をいただきながら作成しました（要約版P54）。

記念事業として30周年記念誌「あなたと次の知床へ」を発行したほか、記念グッズの制作・発売を行いました。また、10月13日から14日にかけて知床自然センターにて「第1回知床アウトドアフィルムフェス」を開催しました（P32）。

10月13日には設立当初から知床財団の運営に携わり、また知床財団を支え続けていただいた皆様をお招きして30周年記念祝賀会を開催しました。

▲30周年記念祝賀会の様子.

▲30周年記念ロゴ入りのオリジナルエコボトル.

▲30周年記念誌.

▲配布した30周年記念マシュマロ.

# 知床財団　10年プロジェクト ～これからの私たちの羅針盤～

私たちは1988年の発足以来30年の節目を迎え、「知床財団10年プロジェクト」を定めました。すでに知床財団は、新たな世紀に向けて私たちが実現しようとする大きな目標である「知床財団の21世紀ビジョン」を制定していますが（2003年制定、2006年改定）、同ビジョンを踏まえながらも目を凝らせば見通すことができる10年という期間の中で進める具体的な事業を今改めて定めたのです。

10年プロジェクトは、知床財団の活動を「国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和の実現」、「野生生物と折り合いをつけていく地域社会の実現」、「しれとこ100平方メートル運動の推進」及び「自主・自立の旗を立てる」の4つの大きなくくりで整理し、10年後にめざす姿を明らかにしました。その中に、3つの最重要プロジェクトと、従来とは異なる視点の2つの新規プロジェクトを組み込みました。

また項目ごとに現状に関する課題認識と，私たちがめざす方向性を記し、10年後に実現させるイメージも示しました。

このプロジェクトは私たちだけで実現するものでありません。斜里町・羅臼町、その他の関係機関や地域の皆さんとも対話を重ねながら、ともに創り上げていこうとする、近い将来の目標です。

## 1. 国立公園・世界自然遺産地域の保護と利用の調和をめざして

### 重要 ヒグマ生息地における新たな国立公園利用のしくみづくりMaaS

【現状と課題、私たちのめざすもの】

知床国立公園の最大の課題、それは高密度に生息するヒグマと公園利用の折り合いをつけることです。問題の多くはビジターが必ず通ることになる道路沿いで発生しています。路上で頻繁に発生する野生動物とのトラブル、特にヒグマへの接近や餌やり行為を防ぐとともに、国立公園の魅力をアップし、渋滞や駐車場不足も解消するしくみを作ることが喫緊の課題となっています。その解決の方向性は、ビジター自ら選択するような利便性とエンターテインメント性を兼ね備えた公園内移動サービス（Mobility as a Service）を提案し、社会実験を通して制度を確立することだと考えています。私たちはMもっと、aあかるく、aあそべる、Sしれとこ、「MaaS」の実現をめざします。

▲道路脇に出没したヒグマを撮ろうと発生する渋滞.

### 知床半島先端部地区の保護と利用

【現状と課題、私たちのめざすもの】

知床岬方面へのトレッカーやカヤッカーなどに対し、事故防止や自然保護のためのルールを確実に情報提供できる法的担保を持つしくみ（自然公園法による利用調整地区制度など）の導入をめざします。先端部地区を原生自然にあこがれる人々が世界中から訪れる魅力あふれる地域にしていきます。ルシャ地区では厳格な保護と利用を調整す

▲知床連山の縦走路.

るしくみを整え、世界遺産の核心と野生を体験できる場を創設します。

### 中央部連山地区（知床連山、羅臼湖～知西別、遠音別）の保護と利用

【現状と課題、私たちのめざすもの】

知床半島の脊梁をなす山岳エリアを走る登山道の難易度を明確化し、登山者のニーズとのマッチングができる情報提供を行います。看板や道標、パンフレットの地図などで用いられるピクトを、海外からの来訪者にも対応できるユニバーサルデザインに整理統一していきます。また、知床半島の多様な環境を体験できる新たな登山道のコース群の整備をめざします。

### 国立公園内の園地施設などを拠点とした活動展開

●知床五湖～カムイワッカ地区

【現状と課題、私たちのめざすもの】

知床五湖は、春～秋期は先進的な利用システムが整えられていますが、冬期については持続的な利用のあり方がいまだ混沌とした状態にあります。自然公園法による利用調整地区制度の冬期への展開も視野に入れた見直しを進めます。また、知床五湖のモデルを応用し、この地域全域でビジターが適切な情報提供を得ることができるシステムへと発展させます。利用調整地区の手数料収入が、サービス向上と魅力アップ、環境保全などに幅広く再投資される好循環を実現します。

大幅に魅力が後退してしまったカムイワッカ地区では、新しい散策ルートやオホーツク海を眺める展望地などの整備を進めるとともに、知床連山登山口としての機能を強化し、縦走利用者に配慮した公共交通手段の利便向上を図ります。

●羅臼ビジターセンターと湯ノ沢地区

【現状と課題、私たちのめざすもの】

羅臼ビジターセンターを訪れるビジターはまだ少なく、地域内での知名度も十分とはいえません。羅臼側の国立公園利用の拠点施設として、情報発信やインバウンド対応の機能充実を図り、立ち寄って「役に立つ施設」としていきます。また、周辺も含む環境整備をすすめるとともに、民間事業者と共同のカフェ運営を行うなど、ビジターも住民も気軽に利用できる施設をめざします。

▲知床五湖と高架木道.

▲シカの行動を追跡するための首輪を装着する職員.

●ルサフィールドハウスとルサ地区

【現状と課題、私たちのめざすもの】

先端部地区に立ち入るビジターのための施設として整備されましたが、まだ利用者は少ない状況です。事故防止や自然保護ためのルールを確実に情報提供するために、利用調整地区制度など法的担保をもつ管理システムの導入によって、先端部地区に入るビジターが必ず立ち寄るしくみを整備します。また、先端部での活動に必要な装備品のレンタルも充実させるとともに、休憩機能の充実やキャンプ場、野生動物観察施設の整備などを進めます。

## 知床国立公園・世界自然遺産を知り、守り、伝えるための調査研究

【現状と課題、私たちのめざすもの】

財団業務が拡大する一方で、職員が国立公園や野生動物の保護管理に関わる先進的な調査研究を継続的に進める体制は十分とはいえません。職員がさまざまな研究会や学会等で常に最新の知識を得て、多様な専門家との人的ネットワークを持ち、それらを知床での課題解決、国立公園管理のシステム開発、教育普及や科学委員会など各種検討の場に役立てていくことができる持続的なしくみを作ります。

## 2. 野生生物と折り合いをつけていく地域社会をめざして

### 重要 羅臼地区におけるヒグマと地域住民の軋轢解消

●ヒグマに負けない街づくり

【現状と課題、私たちのめざすもの】

水産加工場の残渣や一般家庭の生ごみなどの誘引物の管理が十分にできていないこと、ヒグマの侵入路や潜伏地となる藪が市街地内外に多数あることが、羅臼におけるヒグマ対策を困難にしている長年の課題です。これらの問題は財団や行政だけではなく、地域住民も主体性を持ってともに改善を進める状況を創出、維持することで初めて解決されるものです。ヒグマを人の生活圏および活動圏に近づけない、呼び寄せない地域づくりをめざします。

●ヒグマに負けない人づくり

【現状と課題、私たちのめざすもの】

ヒグマに関する地域住民の危機管理意識やそのための知識はいまだ十分ではありません。児童生徒を対象としたヒグマについて学ぶ授業を継続するとともに、大人向けの講座も行っていきます。また、町内のヒグマ情報がきめ細かく収集され、それらが速やかに住民や関係機関に共有されるしくみを構築し、住民自らがその時々の状況に応じた適切な対応を取ることができる人づくりをめざします。

▲住民の方へのヒグマレクチャー .

▲羅臼の住宅近くに出没したヒグマ.

### ウトロ・斜里市街地周辺の野生生物対策

【現状と課題、私たちのめざすもの】

ウトロ市街地内へのヒグマの侵入や潜伏はいまだに毎年複数回発生しています。また、街中が藪だらけの状態はヒグマ対策上大きな問題であるばかりでなく、世界遺産の冠をいただく観光の街としてふさわしい美観とは到底言えません。ヒグマを侵入させない環境づくり、住民やビジターが心地よく過ごすことができる環境づくりを積極的に進めます。斜里中心市街地でもヒグマが侵入しかねない状況が発生しており、ヒグマ対策への住民の意識も高いとは言えません。市街地を防衛する電気柵を適切な状態で維持管理するとともに、斜里市街地のすべての児童生徒へのヒグマ授業の実現をめざし、保護者対象の学習の機会も設けます。

### NEW 農地周辺の野生生物対策

【現状と課題、私たちのめざすもの】

農地の野生動物被害対策を猟友会だけに依存する体制は、近い将来困難となることが明白です。野生動物による農業被害の防除、被害対策の労力低減、及びヒグマの人為的な死亡率の低下をめざして、農業被害に関わる現地調査・防除用の電気柵資材の販売・設置・維持管理・アフターサービスまでの全サー

ビスを、費用負担も頂きながらワンストップで対応する「被害対策事業部門」の設立を検討します。また今後も一定数のヒグマ駆除は不可避であるため、当財団職員の銃器取扱・射撃・安全管理に関する技術の向上を図り、プロフェッショナルとしての現場対応が可能な人材の育成を行います。

### 野生生物対策の広域連携の推進

【現状と課題、私たちのめざすもの】

行動範囲が大きく、世界遺産管理計画の中でも自治体の境界を越えた管理が求められているヒグマやエゾシカについては、広域管理体制を整えることが必要です。知床半島を構成する斜里町・羅臼町・標津町の間で、ヒグマやエゾシカに関する情報共有や現場対応が密接な連携の元に実行できる体制を作ります。また、その他の近隣市町村も含めて、各自治体の要望に応じ、技術供与・物品調達・捕獲事業・現地調査・データ解析等のサービスを提供できる体制を検討します。

## 3. しれとこ100平方メートル運動の推進

### 森・川・人プロジェクト

●財団としての取り組みと体制

【現状と課題、私たちのめざすもの】

担当職員の専門性を高めるとともに、長期的な視点を持って森林再生計画を着実に実行することができる体制を再構築する必要があります。外部の専門家等とも密に連携しながら、自然林の再生や生物相復元に関する基礎的な調査研究から現場での事業まで財団が主体的に行う状況を実現します。また事業の成果は科学的に検証し、公表していきます。

●運動の持続的発展への現地からの支援

【現状と課題、私たちのめざすもの】

超長期にわたる100平方メートル運動の自然再生は、運動への支援の輪を持続させていかなければなりませんが、運動参加者の減少が課題となっています。斜里町が主体の運動ですが、財団は知床自然センターからの情報発信、報道対応や講演活動、運動地を見ていただくトレイル「森づくりの道」の拡充などの活動を通じて、運動への理解促進や参加者の拡大に貢献していきます。運動を支える関東･関西･北海道の3支部との協働による現地活動により、支部の活性化や新たな担い手の開拓も図ります。

▲多くの方に支えられながら進む森づくり.

## 4. 自主・自立の旗を立てよう

### 重要 幌別 Reborn
### ～幌別地区の魅力の再発見と再生～

●Reborn#1：知床アウトドアフィルムフェス（SOFF）を核としたブランディングと知床自然センターの高度利用

【現状と課題、私たちのめざすもの】

地域関係者との連携のもとに好評を博した2018年の第1回SOFFを発展的に継続し、「MEGA スクリーン KINETOKO」のブランディング、企業からの財団への支援獲得等の機会とします。また、オリジナル映像のコンペティションの場としても大きく育て、観光的にも知床の秋の看板イベントに発展させます。

また、知床自然センターの多様な利用方法を企画提案して、施設の多面的な活用や収益性の向上を図ります。

●Reborn#2：知床自然センターとその周辺の魅力UP

【現状と課題、私たちのめざすもの】

幌別地区園地の整備から30年以上を経過した今日、知床自然センターからフレペの滝に至る地域全体の利用の在り方を再検討する必要があります。幌別を国立公園のフロントカントリーとして、より魅力的で利便性の高いものとし、来訪者数増加や満足度向上をめざします。そのために、①鮮度の高いフィールド情報等を効果的に伝える機能、②シャトルバス、路線バス等への乗り換えサービスやアクティビティの提案もあわせて担う公園内交通システムの中核施設としての機能、③ゆったりと休憩や買い物ができる機能、そして④多様なニーズに応じた散策路ネットワークのハブとしての機能の充実も図っていきます。

▲知床アウトドアフィルムフェス.

## NEW 半島を出よう

【現状と課題、私たちのめざすもの】

我が国の国立公園で唯一、シカ個体群の大幅な減少を成功させたノウハウを活用し、道東・道北地区の国立公園や国有林におけるエゾシカ捕獲や調査事業へ参入することをめざします。また、北海道から発注される知床半島以外の「指定管理鳥獣捕獲等事業」についても受注していきます。

## 公益財団法人だけど貪欲なプロジェクト

●販売事業の拡大プロジェクト

【現状と課題、私たちのめざすもの】

販売収益は、財団が独自の事業展開を行う上で重要な財源であり、拡充が必要です。独自の商品開発、卸販売先の拡大、営業の強化、レンタルサービス等の充実によって事業を強化・拡大し、収益事業の柱とします。

▲人気商品ナルゲンエコボトル.

●寄付・賛助会費の拡大プロジェクト

【現状と課題、私たちのめざすもの】

寄付金や賛助会費も財団が独自の事業を行うために必須の財源です。情報発信の強化や会員向け特典サービスの再検討をすすめるとともに、法人から支援を頂くための働きかけも強化して、収入を伸ばしていきます。

## 組織・人事改革
## ～知床に貢献できる人と仕組みのために～

【現状と課題、私たちのめざすもの】

財団の設立者の一つである斜里町の規程に準じた現状のしくみを、経営状態に柔軟に対応できるしくみへと再構築する必要があります。賃金体系の見直し、同一賃金同一労働の考えに基づいた雇用体系の見直し、計画的人事と福利厚生の改善を進め、職員各々の能力が最大限発揮できるような労働環境を整え、活力ある組織をめざします。

## 職員の自己啓発の推進
## ～引き出しの数と中身を増やそう～

【現状と課題、私たちのめざすもの】

職員一人一人が自己研鑽に励み、視野を広げ、新たな仕事にチャレンジしていけるよう、職員の意識改革と研修を推進しなければ、財団の持続的展開はあり得ません。それらを可能とする制度の整備や職場環境改善も進めます。知床の保護と利用の調和をめざして、企画提案や対話を通じて、関係行政機関や地域社会とともに知床の進化を支え続ける組織であり続けるための人づくりを強化します。

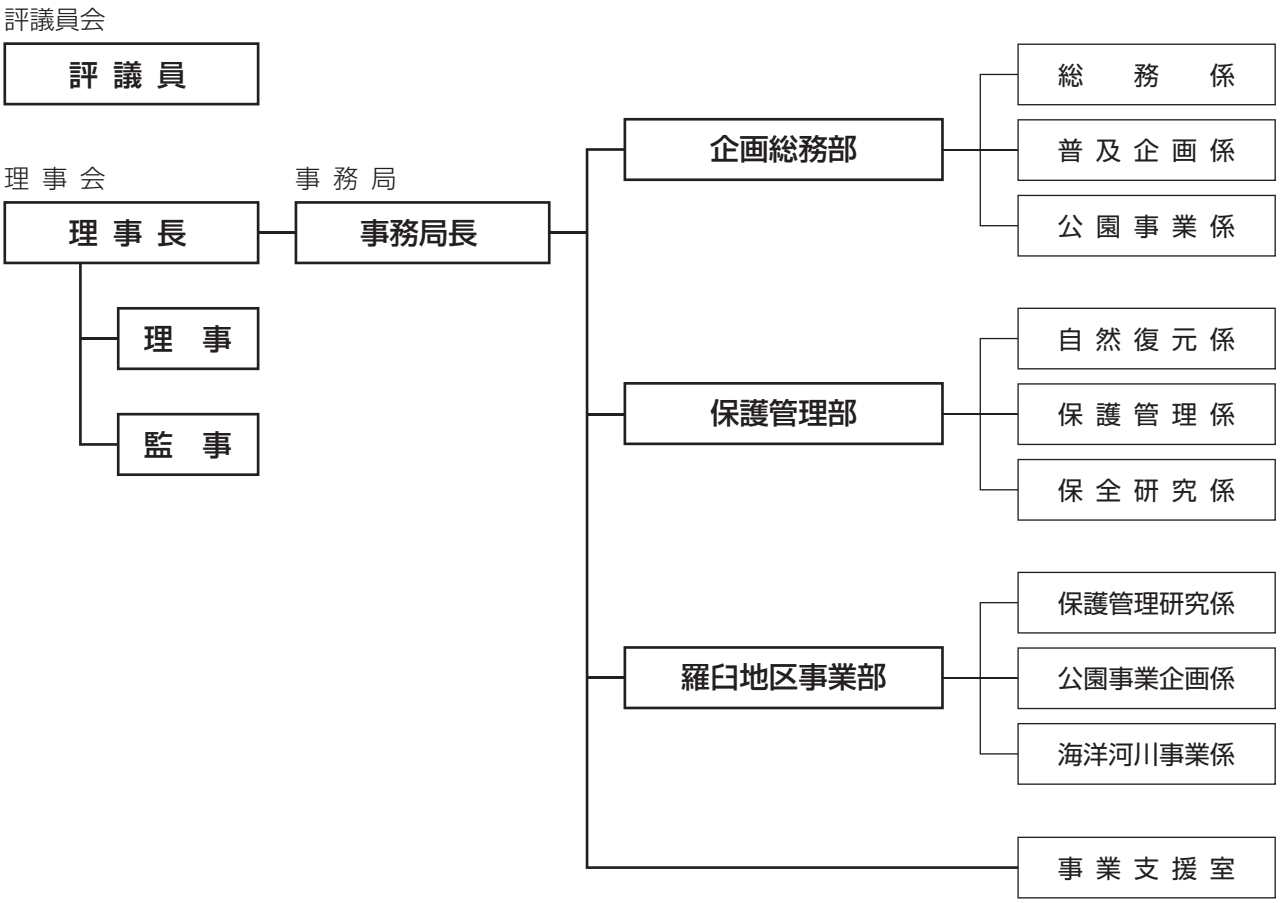
# 受託事業一覧

| 発注元 | 本文対象No. | 事業名 |
|---|---|---|
| 斜里町 | A 1 | ヒグマ管理対策業務 |
| | A 2 | 自然環境保護管理対策業務 |
| | A 3 | 知床自然センター他管理業務 |
| | A 4 | 知床五湖水道施設等管理業務 |
| | A 5 | しれとこ100平方メートル運動地森林再生推進業務 |
| 羅臼町 | B 1 | ヒグマ管理対策業務 |
| | B 2 | 野生鳥獣及び自然環境保護管理業務 |
| | B 3 | 羅臼ビジターセンター運営業務 |
| | B 4 | 知床世界遺産ルサフィールドハウス運営業務 |
| 環境省 | C 1 | 知床世界自然遺産地域における住民向け普及啓発講座開催補助業務 |
| | C 2 | 知床半島ヒグマ管理計画に基づくゾーニング管理等推進業務 |
| | C 3 | 知床国立公園（春期）エゾシカ個体数調整実施業務 |
| | C 4 | 知床国立公園エゾシカ個体数調整実施業務 |
| | C 5 | 知床生態系維持回復事業　エゾシカ航空カウント調査業務 |
| | C 6 | 知床世界自然遺産地域科学委員会等運営業務 |
| | C 7 | 羅臼ビジターセンター維持管理等業務 |
| | C 8 | 知床五湖フィールドハウス等運営業務 |
| | C 9 | 知床世界遺産ルサフィールドハウス管理運営業務 |
| | C10 | 知床国立公園知床五湖利用調整地区管理対策等業務 |
| | C11 | 知床五湖登録引率者養成研修等業務 |
| | C12 | 知床半島先端部地区 適正利用の啓発及び利用のあり方検討業務 |
| | C13 | 大雪高原温泉沼めぐりコース管理運営計画作成業務 |
| | C14 | 知床国立公園ウトロ地区利用者カウンター管理業務 |
| 林野庁 | D 1 | 知床におけるエゾシカ捕獲等事業（誘引狙撃） |
| | D 2 | 知床におけるエゾシカ捕獲等事業（囲いわな等） |
| | D 3 | 網走管内国有林エゾシカ誘引捕獲事業（春季囲いわな） |
| その他 | F 1 | 知床生態系維持回復事業エゾシカ食害状況評価に関する植生調査事業 [株式会社さっぽろ自然調査館] |
| | F 2 | エゾシカ生息状況調査 [網走市] |
| | F 3 | ヒグマ生息状況調査 [網走市] |
| | F 4 | 日本クマネットワークウェブページ管理業務 [JBN] |
| | F 5 | 知床五湖当日受付カウンター運営業務 [知床ガイド協議会] |
| | F 6 | カムイワッカ地区における自動車利用適正化対策の実施に伴う現地管理連絡調整等業務 [知床国立公園カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会 |
| | F 7 | 知床シャトルバス乗車券販売業務 [斜里バス株式会社] |

# 組織概要

| | |
|---|---|
| 名　　称 | 公益財団法人　知床財団（2011年4月に名称変更　旧名称　財団法人　知床財団） |
| 設　　立 | 昭和63年（1988年）9月23日 |
| 設 立 者 | 斜里町・羅臼町 |
| 基本財産 | 4,500万円 |
| 所 在 地 | 〒099-4356<br>北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地 知床自然センター |
| 目　　的 | この法人は、知床半島及びその周辺地域の自然環境に関する調査・研究、自然保護の普及啓発などの事業を行い、もって広く自然保護の保全と利用の適正化に寄与することを目的とする。 |
| 事　　業 | (1)　野生動植物の調査・研究<br>(2)　自然保護の普及啓発<br>(3)　自然保護に関する諸団体との提携<br>(4)　自然環境の保全管理及び公園施設などの管理運営受託業務<br>(5)　その他この法人の目的を達成するために必要な事業 |
| 職　　員 | 35名 |

2019年3月末



## 知床の価値ある自然を
## 私たちと一緒に守りませんか

https://www.shiretoko.or.jp/supporter/

「どなたでも知床の自然保護活動に貢献できます！」

知床の自然を未来へ遺していくためには、皆様の継続的な支援が不可欠です。
皆様が知床の自然を思う気持ちを私たちに託して下さい。

### 知床財団の賛助会員制度

会員になると、知床自然情報誌SEEDSや刊行物を定期的にお届けする他、知床自然センターの映像展示館の入館料免除など、各種特典があります。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 個人年会員 | 5,000円/年 | 法人年会員 | 20,000円/年 |
| 個人終身会員 | 100,000円/終身 | 法人特別年会員 | 100,000円/年 |
| 寄付 | おいくらからでも受け付けています。 | | |

### 賛助会員の入会・更新方法

知床財団 賛助会入会・寄附　https://www.shiretoko.or.jp/supporter/kojin/

| | |
|---|---|
| ①自動振替〈クレジットカード決済〉 | ホームページから直接お申し込みいただけます。<br>初回の決済を行った日から1年ごとに決済させていただきます。 |
| ②自動振替〈銀行口座振替〉 | ホームページにて「口座振替依頼書」にご入力後、依頼書を印刷し、記名・捺印の上、下記の宛先までご郵送ください。<br>【送付先】〒099-4356 斜里郡斜里町字岩宇別531　公益財団法人 知床財団　企画総務係 |
| ③Loppi からお申し込み | 全国のローソン・ミニストップに設置されているLoppi（店頭端末）から24時間365日お申し込みいただけます。 |
| ④郵便局からお申し込み | 【口座番号】02750-2-37694<br>【加入者名】公益財団法人 知床財団 |
| ⑤知床の現地でお申し込み | 知床自然センター、羅臼ビジターセンターのカウンターにて受け付けております。 |
| ⑥ネットショップからお申し込み | 知床財団ネットショップ「コムヌプリ」にてクレジットカードでご入金いただくことができます。<br>※自動振替にはなりません。<br>コムヌプリ　http://shop.shiretoko.or.jp/ |

あなたと次の知床へ

30th

SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

# REPORT 2018

2018年度活動報告書

表紙写真 クマ授業で子供たちにクマのフンの内容物を見せる職員

知床財団
SHIRETOKO NATURE FOUNDATION

Annual Report 2018 2019年10月18日発行

〒099-4356 北海道斜里郡斜里町字岩宇別531番地 公益財団法人 知床財団 Tel 0152-24-2114 Fax 0152-24-2115 E-mail info@shiretoko.or.jp HP https://www.shiretoko.or.jp